

高知県立大学

生涯学習実績等調査

2014年度調査報告書

[学外公開版]

2015年04月

地域教育研究センター

生涯学習部会

目次

| | |
|--|-----|
| I. 序 | 001 |
| 1. はじめに | 003 |
| 2. 調査概要 | 005 |
| II. 出前講座 | 007 |
| 1. これまでの「小学校・中学校・高等学校などにおける出前授業・講義」の実績 | 009 |
| (1) 文化学部 | 009 |
| (2) 看護学部 | 010 |
| (3) 社会福祉学部 | 011 |
| (4) 健康栄養学部 | 012 |
| (5) 地域教育研究センター | 012 |
| 2. 今後可能な「小学校・中学校・高等学校などにおける出前授業・講義」 | 014 |
| (1) 文化学部 | 014 |
| (2) 看護学部 | 014 |
| (3) 社会福祉学部 | 014 |
| (4) 健康栄養学部 | 015 |
| (5) 地域教育研究センター | 015 |
| III. リカレント講座 | 017 |
| 3. これまでの「リカレント講座」の実績 | 019 |
| (1) 文化学部 | 019 |
| (2) 看護学部 | 021 |
| (3) 社会福祉学部 | 022 |
| (4) 健康栄養学部 | 024 |
| (5) 地域教育研究センター | 025 |
| 4. 今後可能な「リカレント講座」 | 027 |
| (1) 文化学部 | 027 |
| (2) 看護学部 | 027 |
| (3) 社会福祉学部 | 027 |
| (4) 健康栄養学部 | 028 |
| (5) 地域教育研究センター | 028 |
| IV. 公開講座 | 029 |
| 5. これまでの「公開講座」の実績 | 031 |
| (1) 文化学部 | 031 |
| (2) 看護学部 | 033 |
| (3) 社会福祉学部 | 033 |
| (4) 健康栄養学部 | 034 |
| (5) 地域教育研究センター | 035 |
| 6. 今後可能な「公開講座」 | 037 |
| (1) 文化学部 | 037 |
| (2) 看護学部 | 037 |

| | |
|----------------|-----|
| (3) 社会福祉学部 | 037 |
| (4) 健康栄養学部 | 038 |
| (5) 地域教育研究センター | 038 |

| | |
|---------------|-----|
| V. 資料編 | 039 |
|---------------|-----|

| | |
|-----------|-----|
| 1. 調査依頼文書 | 041 |
|-----------|-----|

| | |
|--------------|-----|
| 2. 調査票および記載例 | 043 |
|--------------|-----|

1. 序

1. はじめに

2015年04月30日
高知県立大学地域教育研究センター
センター長 清原泰治
生涯学習部会長 宇野浩三

生涯学習・教育の重要性についてはすでにさまざまに語られ明らかにされてきているところです。高知県立大学においても、高知女子大学の時代から公開講座やリカレント講座・出前講座など、生涯学習・教育にかんして多くの貢献をしてきております。

いっぽう高知女子大学は高知県立大学に改組され、2012年度には地域教育研究センターが開設されて、そのなかに生涯学習部会が設置されました。高知県立大学の基本理念として「域学共生」が確立され、そのなかに生涯学習・教育も位置づけられて、高知県立大学における生涯学習・教育の推進等の役割をになうことになりました。

そこでまず2012～2013年度は、新たな生涯学習・教育のための機会を増やすために、これまでの公開講座・リカレント講座・出前講座などに加えて、(1)県民開放授業の開設(2002年度から文化学部で実施されてきた県民開放授業の全学への拡大)、(2)履修証明プログラムの開設、をおこないました。

このような経過のなかで、高知県立大学が地域の生涯学習・教育にかんして今後よりいっそう大きな役割を果たしていくためには、(1)高知県立大学のこれまでの生涯学習・教育における実績の把握、(2)高知県立大学がもっている生涯学習・教育にかんする学習・教育資源の把握、(3)地域の生涯学習・教育にかんする現状・要請等の把握、などが必要であり、それらの実態・事実等にもとづいて、(4)今後の生涯学習・教育への寄与・貢献のあり方を整理し、具体的な企画立案をおこない、それらを実行に移していきたいと考えております。

このような考え方のもとで、2014年度にはまず(1)(2)の学内の専任教員に対しての生涯学習・教育にかんする実態・資源調査と、(3)のうちの公開講座にかんする地域の実態・意向等調査をおこないました。この調査報告書は、これらの一連の調査のうち、(1)(2)の高知県立大学における生涯学習・教育にかんする実績・資源調査にもとづく調査報告書です。この調査結果は学内および学外に公表するとともに、この調査データにもとづいて、今後の生涯学習・教育にかんする計画立案等をおこなっていく予定です。(なお、(3)の公開講座にかんする地域の実態・意向等調査の調査結果報告書「公開講座要望等調査2014年度調査報告書(2015年04月)」については、別途発行いたしておりますので、そちらをご参照ください)。これらの調査にご協力をいただきました関係者のみなさま、ご回答をいただきましたみなさまに、心から感謝申しあげます。

学外・学内のみなさまにおかれましては、この調査結果報告書をご参照いただき、地域の生涯学習・教育にかんするより効果的な実施や、高知県立大学への要請等の、参考資料としていただければ幸いです。

このような調査は、今後も継続的に実施し、その都度調査結果を公表するとともに、高知県立大学における生涯学習・教育のより効果的な実施と、地域への寄与・貢献のために役立てていきたいと考えております。今後とも、高知県立大学の生涯学習・教育の推進等にご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

以上

2. 調査概要

この調査は、高知県立大学の教員がこれまでに生涯学習・教育にかかわる諸活動にどのような実績があり、こんごどのような貢献が可能かを把握して、学内外にたいして公表し、地域の生涯学習・教育の充実等のための基礎資料として活用することを目的として実施したものです。

第1次調査を2014年07月04日に依頼し同年07月25日(そのご08月08日に延期)を締切としてすべての専任教員を対象に実施したものです。第2次調査は、第1次調査結果をとりまとめたものをすべての専任教員に配布し、第1次調査で未回答の場合も含めて新たな追加・修正等をもとめたもので、2015年01月16日に依頼し同年02月10日を締切として実施しました。

その結果、表-1に示すように、全専任教員112名のうち回答可能な専任教員数109名にたいして62.4%の68名から回答があり、実績総件数では412件(未回答者を含む専任教員数にたいする1人あたり件数は3.78件、回答者数にたいする1人あたり件数は6.06件)と、生涯学習・教育にかかわる多数の実績があることが判明しました。講座種別(出前講座・リカレント講座・公開講座)ごとには、出前講座106件(同0.97件、1.56件)、リカレント講座164件(同1.50件、2.41件)、公開講座142件(同1.30件、2.09件)、となっており、全体的には出前講座がやや少なめではあるが、いずれの講座にも比較的バランスよく多数の実績があることが確認できました。リカレント講座の実績はとくに多く、各学部等に関連した各種の専門職者にたいする再教育等が比較的よくおこなわれているものと考えられます。2015年度はまず出前講座の充実をはかるべく計画する予定ですが、この判断はこの実績調査結果からも妥当なものであると考えられます。

各学部等ごとにみると、文化学部では回答者1人あたりで3講座種別合計では約12件ともっとも多く、ついで地域教育研究センター・社会福祉学部・健康栄養学部が9～7件で多くなっています。講座種別でみると、文化学部と地域教育研究センターの公開講座(回答者1人あたり、文化5.54件、地教研4.17件)がもっとも多くなっており、ついで社会福祉学部のリカレント講座(同3.93件)が多くなっています。これら以外の文化学部・健康栄養学部・地域教育研究センターのリカレント講座でもおおむね1人あたり3件ていど、また看護学部以外の出前講座ではおおむね1人あたり3～2件ていどの実績があるようです。また看護学部については、表-2に示すように2012年度以降毎年度実績数がのびており、地域の学校教育のなかでのニーズは大きいものと考えられます。

これらの実績値にたいして、今後可能な講座数については、3講座種別合計では全体で151件(151テーマ)あげられており、未回答者を含めても1人1.39件、回答者1人あたりでは2.22件となっています。各学部等ごとにみると、地域教育研究センター・文化学部では3講座種別すべてで1人1件以上となっており、3講座種別合計では4～3件以上(地教研4.33件、文化3.54件)可能と回答しています。社会福祉学部・健康栄養学部でも、各講座でおおむね1件ていど(1.20～0.63件)、合計で3～2件ていど(3.07～2.38件)、それぞれ可能と回答しています。これらの回答にもとづきつつ、2015年度以降の生涯学習部会関連事業を企画・立案し、効果的に実施していくようつとめたいと思います。

表－１ 生涯学習関連実績等調査の概要¹⁾ [人数(件数)]

| 調査項目 | | 全体 | 文化 | 看護 | 社会福祉 | 健康栄養 | 地域 | 総合 |
|------|--|---------------------|----------------------|--------------------|---------------------|--------------------|--------------------|-------------|
| 回答総数 | 専任教員総数 ²⁾ | 109 | 18 | 46 | 23 | 14 | 6 | 2 |
| | 回答総人数 ³⁾ (%) | 68 62.4 | 13 72.2 | 26 56.5 | 15 65.2 | 8 57.1 | 6 100.0 | 0 0.0 |
| 実績件数 | 回答総件数 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 412 3.78 6.06 | 152 8.44 11.69 | 46 1.00 1.77 | 106 4.61 7.07 | 55 3.93 6.88 | 53 8.83 8.83 | - - - |
| | 出前講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 106 0.97 1.56 | 42 2.33 3.23 | 9 0.20 0.35 | 28 1.22 1.87 | 15 1.07 1.88 | 12 2.00 2.00 | - - - |
| | リカレント講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 164 1.50 2.41 | 38 2.11 2.92 | 29 0.63 1.12 | 59 2.57 3.93 | 22 1.57 2.75 | 16 2.67 2.67 | - - - |
| | 公開講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 142 1.30 2.09 | 72 4.00 5.54 | 8 0.17 0.31 | 19 0.83 1.27 | 18 1.29 2.25 | 25 4.17 4.17 | - - - |
| | 回答総件数 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 151 1.39 2.22 | 46 2.56 3.54 | 14 0.30 0.54 | 46 2.00 3.07 | 19 1.29 2.38 | 26 4.33 4.33 | - - - |
| | 出前講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 52 0.48 0.76 | 18 1.00 1.38 | 3 0.07 0.12 | 12 0.52 0.80 | 7 0.50 0.88 | 12 2.00 2.00 | - - - |
| | リカレント講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 51 0.47 0.75 | 13 0.72 1.00 | 6 0.13 0.23 | 18 0.78 1.20 | 7 0.50 0.88 | 7 1.17 1.17 | - - - |
| | 公開講座 (件/専任) ⁴⁾ (件/回答者) ⁵⁾ | 48 0.44 0.71 | 15 0.83 1.15 | 5 0.11 0.19 | 16 0.70 1.07 | 5 0.36 0.63 | 7 1.17 1.17 | - - - |

註

1) 人数・件数は、専任教員個人からの回答にもとづくものである。学部・大学等の単位で開催されたものは、生涯学習部会が把握しているものについても、教員個人から回答のなかったものは、この表には含まれていない。

2) 長期研修中・育休中などをのぞく、この調査に回答可能な、2014/04/01時点の専任教員数。

3) この調査に、なんらかの有効回答があったものの最大数。

4) 無回答者を含む、専任教員総数についての、1人あたりの件数。

5) 回答者についての、1人あたりの件数。

表－２ 出前講座派遣実績

| 年度 | 依頼高校数 | 派遣総人数 | 文化 | 看護 | 社会福祉 | 健康栄養 | 地域 | 総合 |
|--------|-------|-------|----|----|------|------|----|----|
| 2012年度 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 2013年度 | 7 | 9 | 3 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 2014年度 | 9 | 18 | 2 | 8 | 3 | 4 | 0 | 0 |

註

1) この実績値は、高等学校から地域教育研究センター生涯学習部会に依頼されて派遣したもののみの数値である。

2) 2014年度の「派遣総人数」には高知短期大学の1人を含む。

II. 出前講座

1. これまでの「小学校・中学校・高等学校などにおける出前授業・講義」の実績

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 学校種・学年 | 実施学校名 | 内容 |
|----|---------|--|------|---------------------------------|-----------------------|---|
| 1 | 文化 | Politically Correct Languageについて | 2005 | 高校・2年 | 高知追手前高等学校 | 高等学校への出前授業の一環で実施。言葉とその意味合いについて考えるというテーマ。 |
| 2 | 文化 | 英語教科書の変遷—移り変わりから見えてくるもの— | 2008 | 高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 1950年代から現在に至るまでに出版された中学校教科書の実物をとりあげ、その変化をことばと文化の面から観察していく。 |
| 3 | 文化 | 英語音声学 | 2008 | 高校・2年 | 高知南高等学校 | 英語に現れる母音と子音をとりあげ、日本語との違いや、発音のしにくい音がどのようにすればうまく発音できるようになるかを扱った。 |
| 4 | 文化 | 文学クイズ—あなたの文学センスを試してみましょう。 | 2008 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 文学作品の価値を判断する基準はあるのか、あるとしたらそれはどういうものか、などについて「クイズ」に取り組みながら考えた。 |
| 5 | 文化 | 近代文学の中の「ダメ男」 | 2009 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 近代・現代文学によく描かれるダメな男に注目して、その描かれ方や意味を考えた。 |
| 6 | 文化 | 日本近代文学の中のスポーツ | 2010 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) スポーツに関する文学作品をとらえて、日本近代文学にアプローチした。 |
| 7 | 文化 | 「名前」から考える日本近代文学 | 2007 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 「名前」をめぐるギモンから、日本近代文学を考えた。 |
| 8 | 文化 | 文学の技術的側面—<技術>に注目して文学作品を読んでみよう— | 2011 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 「人称」「視点」「描写と説明」などの技術的な側面から小説を読んだ。 |
| 9 | 文化 | 小説に描かれた坂本龍馬 | 2014 | 主に高知県下の高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 龍馬を描いた最初の小説『汗血千里の駒』(坂崎紫瀾作)を中心に、表現された龍馬像、その材料となった龍馬の手紙などについて考えた。 |
| 10 | 文化 | 「名前」から考える日本近代文学 | 2012 | 高校・2年 | 高知小津高等学校 | (出前講義) 「名前」をめぐるギモンから、日本近代文学を考えた。 |
| 11 | 文化 | 正岡子規の残したもの | 2012 | 高校・2年 | 土佐女子高等学校 | (高校内ガイダンス) 正岡子規の俳句革新、短歌革新、文章革新について。 |
| 12 | 文化 | 南海地震への備え | 2011 | 小学校・6年(地域住民含む) | 高知市立大津小学校 | |
| 13 | 文化 | 高知市立第四小学校 防災参観日「南海地震に備えて今できること」 | 2013 | 小学校・保護者・教員(地域住民含む) | 高知市立第四小学校 | |
| 14 | 文化 | 防災講話「南海地震に備える第一歩」 | 2013 | 小学校・5、6年、中学校・全学年、保護者・教員(地域住民含む) | 黒潮町立佐賀中学校 | |
| 15 | 文化 | 高知市立十津小学校 防災教育講演会「私たちの南海地震への備え」 | 2014 | 小学校・5、6年、保護者・教員 | 高知市立十津小学校 | |
| 16 | 文化 | サマースクール講演会「土佐ことば&カルチャーウォッチング」 | 2011 | 高校・帰国子女 | 明德義塾高等学校 竜国際キャンパス 図書館 | |
| 17 | 文化 | 「ことばと民俗の発見!!」 | 2011 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) |
| 18 | 文化 | 「スタイルで「土佐ことば」 | 2012 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) |
| 19 | 文化 | 大学進学のためのワンデーセミナー「ことばのタイムスリップ—龍馬とジョンワの土佐ことば—」 | 2013 | 高校 | 土佐塾高等学校 | (出前講座) |
| 20 | 文化 | なぜ現代語で読むと、源氏物語は面白くないのか | 2008 | 高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 『源氏物語』の原文と現代語訳との比較。過去・完了に関わる文末の助動詞にしても、『源氏物語』は、「き・けり・つ・ぬ・たり・り」と言い切りの七通りの表現が可能であるのに対して、現代語は、「た」と「る」と言い切りの三通りしかない。現代語訳の解かりやすさの正体は、表現の狭さ、貧しさに他ならないと講義した。 |
| 21 | 文化 | 「土佐鶴」は無かった—『土左日記』の虚構性— | 2009 | 高校・全学年 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高大連携事業) 高知の銘酒の名前「土佐鶴」は、紀貫之の『土左日記』が典拠だと言われているが、作中に描かれている「鶴」は、実は「タンチョウ」ではなく、「コウノトリ」である。『古今和歌集』の編者であり、歌人の貫之は、『万葉集』のような写実の方法は取らず、大陸移入の「松鶴図」のイメージによって、観念的な虚構の風景を描いたのでであると講義した。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 学校種・学年 | 実施学校名 | 内容 |
|----|---------|---|---------------|---------|------------------------------|--|
| 22 | 文化 | 『伊勢物語』のパロディとしての『源氏物語』—「オリジナリティ」とは何でしょう？ | 2011 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 独創性と訳されるOriginalityは、語源がOrigin、「起源」という意味だが、文学史上最高傑作と称される『源氏物語』は、作者、紫式部のまったくオリジナルだとは言えない。古くから『伊勢物語』の「影響」が指摘されており、「作品」の素となった「素材」があったわけである。先行作品の引用＝パロディという観点から、「オリジナリティ」とは何かを考察し講義した。 |
| 23 | 文化 | 「若鳩プラン」 『伊勢物語』のパロディとしての『源氏物語』—「オリジナリティ」とは何だろう？ | 2013 | 高校・2年 | 高知小津高等学校 | 独創性と訳されるOriginalityは、語源がOrigin、「起源」という意味だが、文学史上最高傑作と称される『源氏物語』は、作者、紫式部のまったくオリジナルだとは言えない。古くから『伊勢物語』の「影響」が指摘されており、「作品」の素となった「素材」があったわけである。先行作品の引用＝パロディという観点から、「オリジナリティ」とは何かを考察し講義した。 |
| 24 | 文化 | 『源氏物語』の読み方— 「オリジナリティ」とは何でしょう？ | 2013 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 独創性と訳されるOriginalityは、語源がOrigin、「起源」という意味だが、文学史上最高傑作と称される『源氏物語』は、作者、紫式部のまったくオリジナルだとは言えない。古くから『伊勢物語』の「影響」が指摘されており、「作品」の素となった「素材」があったわけである。先行作品の引用＝パロディという観点から、「オリジナリティ」とは何かを考察し講義した。 |
| 25 | 文化 | 高校生のための文化学講座 | 2012 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 日本史で学ぶ日本文化のなかの建築。 |
| 26 | 文化 | 「外国語・国際関係」分野理解 | 2010、 2011 | 高校・2年 | 大阪府東大阪市 私立東大阪大学 敬愛高等学校 | (高校内ガイダンス) 校内ガイダンスにおける職業分野理解のためのガイダンス |
| 27 | 文化 | 模擬授業「通訳にチャレンジ」 | 2010 | 高校・全学年 | 大阪府大阪市 私立城星学園 高等学校 | 通訳者という仕事に必要な力を考えていくことを目的とする模擬授業。 |
| 28 | 文化 | 職業ガイダンス「国際・外国語系」 | 2010 | 高校・全学年 | 大阪府大阪市 私立明浄学院 高等学校 | (高校内ガイダンス) 校内ガイダンスにおける職業分野理解のためのガイダンス |
| 29 | 文化 | 「外国語・国際関係」分野理解 | 2012 | 高校・全学年 | 大阪府大阪市 インテックス大阪 | 校内ガイダンスにおける職業分野理解のためのガイダンスと模擬授業 |
| 30 | 文化 | 職業説明会 「エアライン・観光の仕事」 | 2012 | 高校・1年 | 大阪府堺市 大阪府立鳳高等 学校 | 仕事の内容、職業に就くための進路、卒業後の進路と就職先など |
| 31 | 文化 | 模擬授業「国際・観光関係」 | 2013 | 高校・2年 | 大阪府堺市 大阪府立高石 高等学校 | 校内ガイダンスにおける職業分野理解のためのガイダンスと模擬授業 |
| 32 | 文化 | 有名私立大学文系英語対策講座 | 2013 | 高校・3年 | 大阪府大阪市 私立プール学院 高等学校 | 関西の有名私立大学の文系を目指す受験生を対象とした夏季集中英語講座をコーディネートした。 |
| 33 | 文化 | おもしろい漢語と日本語の世界 | 2010 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 漢字の熟語を題材に、日中での意味や使い方の比較を通して、日本と中国の文化について話した。 |
| 34 | 文化 | 大学で学ぶとは！ | 2012 | 高校・1、2年 | 四万十高等学校 | (出前講座) 人文科学を中心に大学での学びを全般的に紹介しながら、とりわけ文学を学ぶことの意義について話した。 |
| 35 | 文化 | 文学の楽しみ ～李白「静夜思」を例に | 2014 | 高校・2年 | 高知小津高等 学校 | (出前講座) 李白「静夜思」を材料に、漢詩を読む面白さを話した。 |
| 36 | 文化 | いつか使いたい英語 | 2009、 2010 | 高校・1、2年 | 中村高等学校 | 文学作品よりキーフレーズを紹介。 構造、使い方について解説。 |
| 37 | 文化 | 大学で学ぶ英語 | 2008 | 高校・1、2年 | 岡豊高等学校 | 語学としての英語、英米文学研究の英語、その共通点と相違点について。 |
| 38 | 文化 | 詩の言葉 | 2012 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 詩の英語の読み方、発想法。 |
| 39 | 文化 | センター試験問題(英語)の文学研究 | 2014 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 文学研究的な発想で読むセンター試験問題。 |
| 40 | 文化 | 「天人女房」の説話から竹取物語を考える | 2013 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 『竹取物語』を軸にして、類似している説話を読んだ。 |
| 41 | 文化 | 日本と西洋の昔話 —その時代的变化を考える— | 2011 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 日本昔話と西洋童話を比べて比較した。 「話型」の研究の紹介をした。 |
| 42 | 文化 | 永遠に変貌するかぐや姫 —伝説の伝承を考える | 2010 | 高校・全学年 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高校生のための文化学講座) 竹取物語を中心に、類似する神話と比較して、どのように神話、伝説、昔話などが変化していくのかを考察した。 |
| 43 | 看護 | 大学で学ぶ看護の基礎 バイタルサインの観察 | 2012 | 高校・2年 | 高知小津高等学校 | 大学で学ぶとは、看護学とは、看護師・保健師・助産師・養護教諭の仕事、看護職の資格取得への道、看護職のやりがい、バイタルサイン(生命徴候)の観察・体温のメカニズムと観察方法についての模擬授業 |
| 44 | 看護 | 看護ケアを創造する ～安楽・リラクゼーションをもたらす ケアを中心に～ | 2012 | 高校・2年 | 中村高等学校 | 看護とは、安楽をもたらす援助についての模擬授業 (安楽とは、看護における安楽の意義、安楽をもたらす看護援助、リラクゼーションの基盤となる視点、ストレス反応とリラクゼーション、主なセルフケアとしてのリラクゼーション法) |
| 45 | 看護 | 大学で看護を学ぶ | 2012、 2013 | 高校・全学年 | 土佐女子高等学校 | 看護学とは、看護職として働くこと、大学で看護学を学ぶことについて、高校生を対象として講義を行った。 |
| 46 | 看護 | 看護に生かすフィジカルアセスメント | 2011 | 高校・全学年 | 高知追手前高等 学校 | 看護の専門性の発揮するために必要なフィジカルアセスメントについて、その目的と方法について、聴診技法の演習を組み入れた講義を行った。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 学校種・学年 | 実施学校名 | 内容 |
|----|---------|--|------------------------|---------|--------------|---|
| 47 | 看護 | 世界に発信する災害看護 | 2014 | 高校・全学年 | 土佐塾高等学校 | 看護学について説明するとともに、災害看護の概要そして初期期に焦点を当て、トリアージの方法について聴衆反応システムを活用して講義を行った。 |
| 48 | 看護 | いのちの教育 | 2004 | 中学校・2年 | 高知県 田野町 | 妊娠期間中の胎児の様子、出産のしくみ、助産師の仕事などを分かりやすく伝え、いのちの大切さを考えてもらう。 |
| 49 | 看護 | 赤ちゃんの観察 | 2010 | 高校・2、3年 | 中村高等学校 | 胎児期から新生児期にかけて、どのような変化が生じるのか、また新生児の観察の目的を学習し、新生児モデルをとおして観察技術を体験することで、看護に関心をもってもらう。 |
| 50 | 看護 | 重い病気やけがをした人への看護(クリティカルケア)に関する講義 | 2013 | 高校・全学年 | 香川県立丸亀高等学校 | ドラマでよく見る救急外来やICUの例を基に、どのような役割が看護師に求められていて、どのようなことをしているのか。また、患者さんやご家族がどのような体験をしているのかについて。 |
| 51 | 看護 | 心肺蘇生法、救急法(止血、骨折の固定など)に関する講義と演習 | 2014 | 高校・全学年 | 春野高等学校 | シャツや雑誌、ネクタイなど身近なものを使った応急救護法についての体験学習。 |
| 52 | 社福 | 「社会福祉のしごと」 | 2007 | | 高知追手前高等学校 | 社会福祉のしごとの意義とやりがいや難しさ、他の保健医療職と比較しての、社会福祉専門職の業務の内容とその役割について |
| 53 | 社福 | 「もし、私がインドに生まれていたら～途上国女性のライフスタイルと女子教育」 | 2005 | 高校・全学年 | 高知市 | (社会福祉学部高校生講座) 開発途上国のジェンダー問題とその背景にある女性の人権や女子教育に対する意識の壁を視聴覚教材から読み取り、女性へのエンパワメントのアプローチを考察する。 |
| 54 | 社福 | 世界に目を向けよう！ 開発途上国の子も達とソーシャルワーク支援 | 2013 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | (オープンキャンパス社会福祉学部講義) 開発途上国(ケニアを例に)のストリートチルドレンと、戦後日本で混血児の母と暮らした「澤田美喜」の取り組みから、ソーシャルワーカーの役割や支援の特性を考える |
| 55 | 社福 | 社会福祉学とソーシャルワーク | 2007-2013 (年2、3回程度) | 高校・1、2年 | 大阪府・和歌山県 | 学問としての社会福祉学と社会福祉専門職について |
| 56 | 社福 | 「大学模擬授業」 | 2013 | 高校・1、2年 | 高知市 | 介護福祉士に関する基礎的な授業の一部分に演習を交えて行った。 |
| 57 | 社福 | 「対人支援の基礎を学ぼう！」 | 2005 | 高校・全学年 | 高知市 | (社会福祉学部高校生公開講座) 社会福祉士や精神保健福祉士の専門技術であるソーシャルワークについて概説し、対人支援の基礎を演習形式で体験的に学ぶ。 |
| 58 | 社福 | 高知県立中村高等学校模擬授業 「社会福祉援助技術を体験する」 | 2006 | 高校・全学年 | 中村高等学校 | 社会福祉士や精神保健福祉士の専門技術であるソーシャルワークについて概説し、対人支援の基礎を演習形式で体験的に学ぶ。 |
| 59 | 社福 | 高知県立中村高等学校模擬授業 「ソーシャルワーカーの相談援助と専門的技法を学ぶ」 | 2009 | 高校・全学年 | 中村高等学校 | 社会福祉士や精神保健福祉士の専門技術であるソーシャルワークについて概説し、相談援助の内容と実践場面で用いる専門的技法について体験的に学ぶ。 |
| 60 | 社福 | 「ソーシャルワークとは—生活のとらえ方を学ぼう—」 | 2009 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | (高知県立大学オープンキャンパス模擬授業) ソーシャルワークの視点について、生活のとらえ方をもとに概説した。 |
| 61 | 社福 | 「『安心した暮らし』を支える ソーシャルワーカーの仕事—子どもや高齢者への生活支援—」 | 2012 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | (高知県立大学オープンキャンパス模擬授業) 現代社会で生じる生活上の経済的・社会的・心理的問題を概説し、安心した暮らしを支える社会福祉士や精神保健福祉士の相談援助の内容について、子どもや高齢者のソーシャルワーク事例をもとに概説した。 |
| 62 | 社福 | はじめてのソーシャルワーク | 2003 | 高校・2年 | 京都府・宇治市 | 現代社会における社会福祉の重要性を解説しながら、社会福祉およびソーシャルワークについての基礎的な理解を目標に講義を行った。 |
| 63 | 社福 | 対人支援はじめての一步 | 2006 | 高校・全学年 | 高知市 | 現代社会における社会福祉に関する課題を提示しながら、ソーシャルワークを中心とした対人支援についての基礎的な理解を目標に講義・演習を行った。 |
| 64 | 社福 | 社会福祉による支援—ソーシャルワークという方法— | 2008 | 高校・2、3年 | 高知市 | 現代社会における社会福祉に関する課題や事例を提示しながら、社会福祉およびソーシャルワークについての基礎的な理解を目標に講義を行った。 |
| 65 | 社福 | 社会福祉による支援—ソーシャルワークという方法— | 2009 | 高校・2年 | 高知市 | 現代社会における社会福祉に関する課題や事例を提示しながら、社会福祉およびソーシャルワークについての基礎的な理解を目標に講義を行った。 |
| 66 | 社福 | 社会福祉入門—ソーシャルワークという方法— | 2010 | 高校・2年 | 高知市 | 現代社会における社会福祉に関する課題や事例を提示しながら、社会福祉およびソーシャルワークについての基礎的な理解を目標に講義を行った。 |
| 67 | 社福 | 社会福祉分野で働くソーシャルワーカーの仕事 | 2012 | 高校・全学年 | 宿毛市 | 現代社会における社会福祉に関する課題を示しながら、社会福祉およびソーシャルワーク、専門資格についての基礎的な理解を目標に講義・演習を行った。 |
| 68 | 社福 | 社会福祉について | 2013 | 高校・2年 | 高知市 | 私たちの生活上に発生する諸問題について説明し、それに対応する社会福祉の役割について分野別、職種別、資格別に解説した。あわせて、大学で学ぶ意味や学ぶ上で大切だと思われることについて話した。 |
| 69 | 社福 | 社会福祉について(分野・仕事・考え方) | 2014 | 高校・2年 | 高知市 | 私たちの生活上に発生する諸問題について説明し、それに対応する社会福祉の役割について分野別、職種別、資格別に解説した。あわせて、大学で学ぶ意味や学ぶ上で大切だと思われることについて話した。 |
| 70 | 社福 | 「障害」ってなんだろう？—障害のある人の暮らしから考える | 2013 | 高校・全学年 | 高知県立宿毛高等学校 | 障害のある人々の暮らしの事例を紹介しつつ、実際の関わりを通して生活課題や人々の思いを知ることの大切さを伝えた。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 学校種・学年 | 実施学校名 | 内容 |
|----|---------|---|----------------|----------------|----------------------------|--|
| 71 | 社福 | 価値観と他者への理解 ー多様な価値観 | 2010、2013 | 高校・全学年 | 静岡県浜松市、高知市他 | 自己の価値観について言語化する力を養う、異なる価値観と出会い、価値観の背後にある理由も含め、他者の価値観について理解する姿勢を学ぶことを目的に、グループワークを行った。 |
| 72 | 社福 | 人はなぜ働くのか ーモチベーションの視点から | 2010 | 高校・3年 | 静岡県掛川市 | 人が会社という組織の中で、働くのはなぜだろうかという素朴な疑問に対して、報酬やモチベーションという言葉を使って解説を行った。 |
| 73 | 社福 | 「2070年の私ー麻痺・拘縮体験」 | 2010 | 高校・全学年 | 高知市 | (社会福祉学部高校生のための公開講座) 高齢者の不自由さ疑似体験し、どうケアすればよいか考えるきっかけをつくる |
| 74 | 社福 | 「あなたの想い受け取る技術」 | 2010 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | (社会福祉学部オープンキャンパス体験授業) 基本的なコミュニケーション技術を学ぶ |
| 75 | 社福 | 「聞き上手はコミュニケーション上手」 | 2012 | 高校・全学年 | 高知市 | (社会福祉学部高校生のための公開講座) 基本的なコミュニケーション技術を学ぶ |
| 76 | 社福 | 医療機関におけるソーシャルワーカーの役割 | 2012 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | 医療機関で働く社会福祉の専門性について講義した。 |
| 77 | 社福 | 福祉・介護の仕事 | 2009、2010 | 高校・1、2年 | 愛媛県 | 高校1、2年生へ進路選択の一環として(前任校にて)福祉・介護の仕事のイメージと実際 |
| 78 | 社福 | 精神保健福祉ってなんだろう？ ～遠くても近いもの～ | 2013 | 高校・全学年 | 高知県立大学池キャンパス | (社会福祉学部オープンキャンパス体験授業) 精神保健福祉に関して基本的な知識を学ぶ |
| 79 | 社福 | 誰もが暮らしやすい社会の実現 ～障害者支援制度を中心に | 2014 | 高校・1、2年 | 宿毛高等学校 | 高校1、2年生へ進路選択の一環として障害者福祉に関する現状について講義した |
| 80 | 健栄 | エネルギーを使って体脂肪を燃やそう | 2007、2012-2014 | 高校・主に2年 | 柏崎総合高等学校、土佐女子高等学校、高知小津高等学校 | やせと肥満の問題、肥満者が痩せるには |
| 81 | 健栄 | 心臓のしくみと血圧測定実習 | 2007、2008 | 高校・2、3年 | 柏崎常盤高等学校、高知女子大学オープンキャンパス | 心臓の仕組みと血液循環の基礎を学んだ後、血圧測定の方法と実習を行う |
| 82 | 健栄 | 産業社会と人間 | 2010 | 高校・1年 および教員 | 室戸高等学校 | 栄養士に興味を持つ高校1年生と教員に対し、学科の紹介、栄養士の職業、青年海外協力隊の経験等、職業選択を深く考えてもらうための講話を行った。 |
| 83 | 健栄 | 健康教育講座 食事と健康について 若い女性の健康課題 | 2010 | 大学生 | 高知女子大学永国寺・池キャンパス | 若い女性の健康課題である、やせ・生活リズム・貧血等を取り上げ、学生が食生活を振り返り、問題点に気づくよう演習を行った。 |
| 84 | 健栄 | お菓子の食べ方について | 2010 | 高校・2年 | 高知小津高等学校 | 栄養成分表示や食品表示の見方を、お菓子のパッケージを用いて分かりやすく解説 |
| 85 | 健栄 | 貧血予防の食事について | 2010 | 大学生 | 高知女子大学池・永国寺キャンパス | 女子大生の生活習慣を見直すことを目的とし、肥満予防と貧血予防について臨床栄養学の面からヘム鉄と非ヘム鉄の吸収率の良くなる摂取方法を紹介 |
| 86 | 健栄 | 臨床栄養と食生活の関係 | 2011 | 高校・1、2年 | 土佐女子高等学校 | 臨床栄養の面から正しい食生活について説明 |
| 87 | 健栄 | 災害食と栄養管理に関する内容 | 2011 | 短期大学生 | 高知短期大学 | 災害発生後の避難所における食生活の現状を石巻市の食支援の活動報告を通して、南海大地震に備えどのような食事を備蓄しておくべきかを指導した。また、乳幼児や高齢者など災害時要援護者の食支援について臨床栄養の面からサポートする方法を説明した |
| 88 | 健栄 | 知って得する健康的な食生活 ー10年後のあなたのからだは大丈夫？ー | 2011 | 大学生 | 高知県立大学池・永国寺キャンパス | 生活習慣を見直すことを目的とし、栄養バランスについて栄養学の面から解説した。 |
| 89 | 健栄 | 健康的な食事とダイエット方法 | 2012 | 大学生 | 高知県立大学池・永国寺キャンパス | 健康的な食生活習慣として、やっつけられないダイエット法を解説。 |
| 90 | 健栄 | 子育て応援団 すこやか20XX 食育キッチン | 2009-2014 | 小学校・低学年以下 | 高知市 | 高知の野菜や魚を使った簡単に作れる料理を紹介し、紹介した料理の最後の部分を子供たちと一緒に作った。 |
| 91 | 健栄 | 高知のやさしいくだもの・花フェスタ「親子 de 高知県野菜 Cooking スクール」 | 2012 | 小学校 | 高知市 | 高知野菜を使った料理を紹介し、紹介した料理を実際に親子で作ってもらった。 |
| 92 | 健栄 | とさし 夏休み科学☆ものづくり体験ツアー『生活の中の科学』 ～食を中心として～ | 2013 | 小学校 | 高知市 | 豆乳がにがり等を入れることで凝固することを紹介し、実際ににがりを使った豆腐作りを体験してもらった。 |
| 93 | 健栄 | 高知女子大学健康栄養学部について | 2010 | 高校・3年 | 高知東高等学校 | 3年生の進路選択にあたって、高知女子大学健康栄養学部について紹介と説明を行った。 |
| 94 | 健栄 | 高知県立大学健康栄養学部の紹介 | 2011 | 高校・全学年 | 高知丸ノ内高等学校 | 高知県立大学健康栄養学部についての紹介と説明を行った。 |
| 95 | 地教研 | 高校生対象公開講座「高知県の河川の水質について」 | 2004 | 高校・全学年 | 高知女子大学永国寺キャンパス | 公共用水域の水質基準や水質監視方法、水質保全施策を解説し、実際の河川水の水質の測定実習を行い、河川水質とその保全についての理解を深める。 |
| 96 | 地教研 | 生き方を豊にする住居と住環境 | 1996 | 高校・全学年 | 北海道札幌市 | 住宅・住環境の役割、それらの人間の生活・健康・発達などへの影響、などについて、具体的な調査データなどを用いてわかりやすく解説し、豊かな暮らしのための住宅・住環境のあり方等について話した。 |
| 97 | 地教研 | 住宅の地方性を考えるー高知の気候風土にふさわしい住まいー | 2003 | 高校・2年 | 高知市 | 日本各地の住まいの特徴、その気候風土・生活文化・地場産業などとの関連性、などについて、スライドをもちいてわかりやすく解説し、高知県の気候風土にふさわしい住まいのあり方等について話した。 |
| 98 | 地教研 | ユニバーサルデザインについて学ぼう | 2003 | 小学校・5、6年 | 高知市 | 総合的な学習の時間で実施された「森林公園のバリアフリーを考える」という授業のなかで、標記のテーマでの授業をおこなった。ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、子どもたちにも身近な例などをあげて、その基本となる考えかたをわかりやすく解説し、事例の紹介などをした。 |
| 99 | 地教研 | ひとり暮らしの住まい | 2002 | 高校・3年 | | もうすぐ大学生などとして1人暮らしをする可能性が高い高校3年生にたいして、1人暮らしの住まい探し・選びなどにおける留意点などを考える体験的な授業で、ゲストティーチャーとして解説・助言などをおこなったもの。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 学校種・学年 | 実施学校名 | 内容 |
|-----|---------|------------------------------------|-----------|---------|---------|--|
| 100 | 地教研 | 北海道の住まいとくらしー生活の視点からみたその現状とこれからの課題ー | 2006 | 大学・1、2年 | 北海道札幌市 | 北海道の気候風土に根ざした住まいの現状とこんごのあり方について、建築の専門技術を学ぶ学生にたいして、作り手の立場ではなく住み手の立場に立って生活の視点から考えることのたいせつさを伝えるための講演をおこなったもの。 |
| 101 | 地教研 | 子どもの健やかな成長に向け、今、何をなすべきか | 2013 | 高校・全学年 | 高知市 | 高知県の子ども条例の趣旨について |
| 102 | 地教研 | 地域へ想いは能力を超える | 2014 | 高校・1年 | 高知南高等学校 | 高知県の地域課題について、高校生の気づきを促すための講演とワークショップの開催 |
| 103 | 地教研 | 健康講話「人間とはなにか比較行動学の知見から」 | 2010、2011 | 高校・1年 | 東京都 | 攻撃性と愛着について |
| 104 | 地教研 | 特別活動「自分について考える自我」 | 2005 | 中学校・3年 | 埼玉県 | エゴグラムと交流分析(ロールプレイ) |
| 105 | 地教研 | リラックスゼーション | 2004 | 中学校・3年 | 埼玉県 | 身体あそび・脱力・タッピング(グループワーク) |
| 106 | 地教研 | おもしろワクワク化学の世界'10高知化学展 | 2010 | 小、中学校 | 高知会館 | 液晶を作製し、頒布した。 |

2. 今後可能な「小学校・中学校・高等学校などにおける出前授業・講義」

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 学校種・学年 | 内容 |
|----|---------|--------------------------------|-------------------------------|---|
| 1 | 文化 | 英語の発音のしくみ | 中、高校・全学年 | 英語の発音を正確にできるようになるために知っておくこと。 |
| 2 | 文化 | 英語の移り変わり | 高校・全学年 | 英語という言葉が長い年月を経る中でどのように変化してきたのか。 |
| 3 | 文化 | 文学クイズ—あなたの文学センスを試してみましょう。 | 主に高知県下の高校・全学年 | 文学作品の価値を判断する基準はあるのか、あるとしたらそれはどういうものか、などについて「クイズ」に取り組みながら考える。 |
| 4 | 文化 | 近代文学の中の「ダメ男」 | 主に高知県下の高校・全学年 | 近代・現代文学によく描かれるダメな男に注目して、その描かれ方や意味を考える。 |
| 5 | 文化 | 日本近代文学の中のスポーツ | 主に高知県下の高校・全学年 | スポーツに関する文学作品をとおして、日本近代文学にアプローチする。 |
| 6 | 文化 | 「名前」から考える日本近代文学 | 主に高知県下の高校・全学年 | 「名前」をめぐるギモンから、日本近代文学を考える。 |
| 7 | 文化 | 文学の技術的側面—<技術>に注目して文学作品を読んでみよう— | 主に高知県下の高校・全学年 | 「人称」「視点」「描写と説明」などの技術的な側面から小説を読む。 |
| 8 | 文化 | 小説に描かれた坂本龍馬 | 主に高知県下の高校・全学年 | 龍馬を描いた最初の小説『汗血千里の駒』(坂崎紫瀾作)を中心に、表現された龍馬像、その材料となった龍馬の手紙などについて考える。 |
| 9 | 文化 | 「名前」から考える日本近代文学 | 高校・2年 | 「名前」をめぐるギモンから、日本近代文学を考える。 |
| 10 | 文化 | 正岡子規の残したもの | 高校・2年 | 正岡子規の俳句革新、短歌革新、文章革新について。 |
| 11 | 文化 | 自然災害、地域防災、地球科学 | 小、中、高・全学年 (教員・保護者・地域住民とも) | 南海地震、気象災害、地域防災、地球科学全般についての解説・授業。 |
| 12 | 文化 | 人工衛星による地球観測 | 小、中、高・全学年 (教員・保護者・地域住民とも) | 人工衛星による地球観測についての解説・授業。 |
| 13 | 文化 | 土佐ことばウォッチング | 中、高校・全学年 | 土佐ことばを文化・社会・環境の視点で見つめ直す。 |
| 14 | 文化 | 若者語と土佐ことば | 中、高校・全学年 | 最近の若者語と土佐ことばの関係について考える。 |
| 15 | 文化 | SNSとメディアのことば学 | 中、高校・全学年 | スマホ・携帯をはじめとするSNSとメディアとことばの関連について考える。 |
| 16 | 文化 | 古典文学の現代的な意義と近代合理主義批判 | 高校・全学年 | 『古事記』や『源氏物語』を教材とする。 |
| 17 | 文化 | 漢字のしくみ、漢字の面白さ | 小、中、高校 | 漢字についての解説。漢字に親しむ。 |
| 18 | 文化 | 漢詩・漢文を声に出して読む(素読講座) | 小、中、高校 | 論語や漢詩を声に出して読む講義。 |
| 19 | 文化 | 漢詩・漢文全般について | 中、高校 | 漢詩や漢文についての関心を高め、理解を深める。あわせて、日本と関わりの深い中国の文化を理解し、日本文化への理解を深める。 |
| 20 | 文化 | いつか使いたい英語 | 高校・全学年(内容をあらためれば中学生でも可) | 文学作品よりキーフレーズを紹介。構造、使い方について解説。 |
| 21 | 文化 | 詩の言葉 | 中、高校・全学年 | 詩の英語の読み方、書き方。 |
| 22 | 文化 | 異文化理解のおもしろさ | 中、高校・全学年 | 異なる文化を学ぶことで、自文化を見つめ直すおもしろさを講義。 |
| 23 | 文化 | フィールドワークのおもしろさ | 中、高校・全学年 | 研究手法としてのフィールドワークの意義を自分の体験を交えながら講義。 |
| 24 | 文化 | 『万葉集』の名歌を読む | 中、高校・全学年 | 古典文学鑑賞 |
| 25 | 文化 | 『竹取物語』と天人女房譚の比較 | 中、高校・全学年 | 古典文学鑑賞 |
| 26 | 看護 | 看護を学ぶということ | 小、中、高校・全学年 (学年に応じた内容に調整可能) | 急性期看護を例にしながら看護実践の場やその専門性、看護学を学ぶことの意義について解説する。 |
| 27 | 看護 | 災害看護に関する講義と演習 | 小、中、高校・全学年 (学年に応じた内容に調整可能) | |
| 28 | 看護 | 熱中症やスポーツに関するケガ予防に関する講義と演習 | 小、中、高校・全学年 (学年に応じた内容に調整可能) | |
| 29 | 社福 | 社会福祉学とソーシャルワーク | 高校・1、2年 | 学問としての社会福祉学と社会福祉専門職について |
| 30 | 社福 | 社会福祉士や精神保健福祉士の対人支援の基礎を学ぶ | 高校・全学年 | 社会福祉士や精神保健福祉士の専門技術であるソーシャルワークについて概説し、相談援助の内容と実践場面で用いる専門的技法について体験的に学ぶ。 |
| 31 | 社福 | 子どもを取り巻く社会福祉・社会保障制度の内容と支援を学ぶ | 高校・全学年 | 児童福祉の状況とソーシャルワークについて概説し、中学生・高校性の社会福祉への関心を高める。 |
| 32 | 社福 | 高齢者を取り巻く社会福祉・社会保障制度の内容と支援を学ぶ | 高校・全学年 | 高齢者福祉の状況とソーシャルワークについて概説し、中学生・高校性の社会福祉への関心を高める。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 学校種・学年 | 内容 |
|----|---------|------------------------|---------------------------|---|
| 33 | 社福 | 社会福祉入門—ソーシャルワークという方法— | 高校・全学年 | 現代社会における社会福祉に関する課題や事例を示し、社会福祉およびソーシャルワーク、専門資格についての基礎的な理解を目標に講義・演習を行う。 |
| 34 | 社福 | 福祉の役割 | 小、中、高校・全学年(年齢層に応じた内容にできる) | 私たちの生活上に発生する問題に対する福祉の役割について示し、福祉が特定の人に対してだけでなく、みんなにかかわってくることを説明する。 |
| 35 | 社福 | 人はなぜ働くのか—モチベーションの視点から | 高校・3年 | 人が会社という組織の中で、働くのはなぜだろうかという素朴な疑問に対して、報酬やモチベーションという言葉を使って説明する。 |
| 36 | 社福 | コミュニケーション技術—「聞く力」を伸ばす | 中、高校 | 人の話を上手に聞くとはどういうことか、講義・演習を通して学ぶ |
| 37 | 社福 | ソーシャルワーカーのしごと | 高校・全学年 | 社会福祉の専門職であるソーシャルワーカーがどのような場で活躍しているかを、事例をもちいて紹介するとともに、ソーシャルワークの視点や考え方を解説し、社会福祉の利用者などのように向き合い、関わっていくことができるかを、グループワークをとおして考える。 |
| 38 | 社福 | 福祉関係全般 | 問わない | |
| 39 | 社福 | 介護の仕事及び介護福祉士の役割 | 高校・全学年 | 介護人材確保の一環として 介護の仕事は3Kと言われていますが、実際の介護の仕事はどのようなのか |
| 40 | 社福 | 障害者福祉関係全般 | 問わない | |
| 41 | 健栄 | 実績に準じる | | |
| 42 | 健栄 | 宗教と食文化の多様性 | 小、中、高校 | 宗教がもたらす食生活の多様性を、演習等を通じて学び、国際理解教育につなげる。 |
| 43 | 健栄 | 高知のおいしいものを見つけよう・作ってみよう | 小、中、高校 | 地産地消を自分でしてみよう！給食経営管理実習で実施した献立を使った講義実習 |
| 44 | 健栄 | きたるべき南海トラフ地震に備え今すべき食支援 | 小、中、高校、大学生 | |
| 45 | 健栄 | 食品表示の見方 | 小、中、高校、大学生 | |
| 46 | 健栄 | 土佐の食品とその歴史 | 小、中、高校、大学生 | |
| 47 | 健栄 | 高知食材を使った料理教室 | 小学校 | 食育を目的として高知食材を使った料理の紹介と指導を行う。 |
| 48 | 地教研 | 地球環境における海洋の役割 | 中、高校 | 海洋を中心としたエネルギー移動と物質循環を概説する(対象者に合わせて難易度を調整する)。 |
| 49 | 地教研 | 高知の清流 | 小学校高学年～高校 | 高知県の代表的河川の水質、水質を守る様々な取り組みを紹介するしながら、これからできることを考える(対象者に合わせて難易度を調整する)。 |
| 50 | 地教研 | はかる～科学計測と単位 | 小学校高学年～高校 | 日常生活の中で使われているいろいろな量や単位を題材として、これらの背景にある自然現象と自然法則を解説する(対象者に合わせて難易度を調整する)。 |
| 51 | 地教研 | ニセ科学と科学リテラシー | 中、高校 | 一見科学的に見えながらそうでないものの事例を挙げながら、科学的とはどういうことなのかを考える。 |
| 52 | 地教研 | 日本各地の住まいと高知の住まい | 小、中、高校・全学年(年齢層に応じた内容にできる) | 日本各地の住まいの特徴、その気候風土・生活文化・地場産業などとの関連性、高知県の気候風土にふさわしい住まいのあり方、などについて学んだり考えたりする授業を、児童・生徒参加型でおこなう。 |
| 53 | 地教研 | 高知の水切瓦はどこから来たか | 中学・3年、高校・全学年 | 高知発祥・高知独自と考えられている水切瓦の発祥・由来等について、調査データにもとづいて、そうではないことをしめし、水切瓦の由来、全国的なひろがり、などについて解説する。 |
| 54 | 地教研 | 健康で安全な住まいのあり方 | 小、中、高校・全学年(年齢層に応じた内容にできる) | 住宅・住環境が及ぼす健康への影響、健康で安全な住まいにするために留意する必要があること、などについて解説し、児童・生徒たち自身が住宅・住環境の重要性やそのあり方について学んだり考えたりする授業を、児童・生徒参加型でおこなう。 |
| 55 | 地教研 | 2020オリンピック東京大会がやってくる！ | 小、中、高校 | 古代オリンピックと近代オリンピックの歴史から、「オリンピック運動」という視点から、オリンピックの理想が平和と友愛であり、それは教育運動であることを、それぞれの学年の子どもたちに応じて講義する。 |
| 56 | 地教研 | スポーツの言葉の輝き | 小、中、高校 | 「スポーツでがんばる！」この意味について、かつての名選手の言葉を紹介しながら考える。 |
| 57 | 地教研 | 「人間について」 | 小、中、高校 | 心理学、比較行動学 |
| 58 | 地教研 | 「アートセラピー」 | 幼稚園・保育園、小、中、高校 | スクイグル、コラージュ、風景構成法 |
| 59 | 地教研 | 「対人コミュニケーション」 | 小、中、高校 | エゴグラム、交流分析、アサーション、構成的エンカウンター |

Ⅲ. リカレント講座

3. これまでの「リカレント講座」の実績

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|---|------|--|-----------------------------|--|
| 1 | 文化 | 英語授業の教材づくりに活かせるICT | 2014 | 国・公・私立 小・中・高校英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス CAI教室 | ICTを活用することで教室での英語指導にどのような工夫を加えることができるかについて、機器の実習を含めたhands-onでの講習。 |
| 2 | 文化 | 英語音声について一発音指導を支える音声学 (アクセント・リズム編) | 2013 | 国・公・私立 小・中・高校英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス CAI教室 | 英語の音声面を指導する上で教員が身に付けておくべき基本点について、特にアクセントとリズムに焦点を置き、実習形式で学び直すというもの。 |
| 3 | 文化 | ICTを利用した教材開発 | 2013 | 高知県安芸市立 安芸中学校・ 安芸第一小学校 教員 | 安芸中学校PC室 | 中学校英語科の授業および小学校外国語活動の授業作りに活用できるICTの利用方法と操作技術の獲得を目指す。 |
| 4 | 文化 | 英語音声について一発音指導を支える音声学(子音編) | 2012 | 国・公・私立 小・中・高校英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス CAI教室 | 英語の音声面を指導する上で教員が身に付けておくべき基本点について、特に子音の発音に焦点を置き、実習形式で学び直すというもの。 |
| 5 | 文化 | 英語音声について一発音指導を支える音声学(母音編) | 2012 | 中・高校・特別 支援学校英語科 教員、小学校 外国語活動担当 教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス CAI教室 | 英語の音声面を指導する上で教員が身に付けておくべき基本点について、特に母音の発音に焦点を置き、実習形式で学び直すというもの。 |
| 6 | 文化 | コースマネジメントシステム(CMS)の使った教材作り(入門編) | 2009 | 国・公・私立 小・中・高校英語 担当教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス CAI教室 | 1日目は授業管理システムであるMoodleを活用した英語教材の作成。2日目はMoodleのインストール方法について実習形式で学ぶもの。 |
| 7 | 文化 | 国語教育における文学教材の取り扱いをめぐる | 2008 | 県下の現職教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 国語科教材における日本近代の詩歌、小説の位置づけ。 |
| 8 | 文化 | 正岡子規が残したもの | 2010 | 県下の現職教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 俳句革新、短歌革新、文章革新など子規の実績について。 |
| 9 | 文化 | つなげて読んでみよう、日本近代文学 | 2011 | 県下の現職教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) テーマ、文体、題材等の面で関連のある作品をつなげて鑑賞した。 |
| 10 | 文化 | つなげて読んでみよう、日本近代文学(その2) | 2012 | 県下の現職教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) テーマ、文体、題材等の面で関連のある作品をつなげて鑑賞した。 |
| 11 | 文化 | 志賀直哉の短編小説をよむ | 2013 | 県下の現職教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 志賀作品を教材化の視点も含めて講読した。 |
| 12 | 文化 | 平成24年度 第5回生涯学習 研修会 「地震災害と暮らし」 「南海地震に向けて考える ー地域のデータや取り組みからー」 | 2012 | 栄養士、 管理栄養士 | 高知市総合 あんしんセンター | |
| 13 | 文化 | 高知市立大津小学校 教職員 夏の研修 「南海地震について」 「地震発生後、大津小や地域が どのようになるのか」 | 2011 | 大津小学校の 教職員 | 高知市立大津 小学校 | |
| 14 | 文化 | 平成24年度 高知県実践的防災 教育推進事業 命を守る防災教育～地域と連携した 地震津波防災への取り組み～ 「地域に根ざした防災教育」 | 2012 | 県下の教職員 ほか | 高知市立大津 小学校 | |
| 15 | 文化 | 平成24年度 高知県実践的防災 教育推進事業 「南海地震の新想定と大津小学校 での防災教育」 | 2013 | 大津小学校・ 教職員 | 高知市立大津 小学校 | |
| 16 | 文化 | 青木脳神経外科形成外科 防災 安全対策 院内研究会 「南海トラフ巨大地震対策について」 | 2013 | 医師、職員、地域 住民、医院関係者 | 青木脳神経外科 形成外科 | |
| 17 | 文化 | 高知市立第四小学校 防災研修会 「南海地震の新事情からみえる 校区の様子」 | 2013 | 第四小学校の 教職員 | 高知市立第四 小学校 | |
| 18 | 文化 | 高知市立教育委員会 平成25年度 後期 高知市立学校教員防災士 養成研修 「防災を郷土の文化とするための 一考察」 | 2013 | 高知市立学校 教員 | アスパル高知 | |
| 19 | 文化 | 「授業に使える！！日本語 ー意味の世界ー」 | 2009 | 国・公・私立 小・中・高校、 特別支援学校 国語または英語 担当教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、日本語の類義語・反義語や多義語の分析を通じて意味の世界を探り、生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |
| 20 | 文化 | 「授業で知ったク「若者語」ー新しい 日本語の世界」 | 2010 | 国・公・私立 小・中・高校、 特別支援学校 国語または英語 担当教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、社会との関わりを中心にみた若者語の分析を通じて、新しい日本語の世界を探り、生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|-----------------------------------|---------------|---|--------------------|--|
| 21 | 文化 | 「授業でことば探検！ —日本語の語源を探る—」 | 2011 | 国・公・私立 小・中・高校、 特別支援学校 国語または英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、日本語の語源を探り、日本語の成り立ち方から日本語の特徴を見つめ直すことにより、生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |
| 22 | 文化 | 「ことばの考古学—日本語はどのようにして成立したか？—」 | 2012 | 国・公・私立 小・中・高校、 特別支援学校 国語または英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、ことばの古さと新しさを探ることで、日本語の成立過程について学び、ポキャブラリーを豊かにする。生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |
| 23 | 文化 | 「四字熟語について学ぼう」 (ことばと文学Ⅲ) | 2012- 2014 | 小・中・高校 国語科教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (教員免許更新講習) 四字熟語をとりあげ、その原義や由来をあらためて解説し、さらによく似たことわざや故事成語にも触れ、今後の「語彙」「古典」に関する授業のブラッシュアップにつながることをめざすための講座。 |
| 24 | 文化 | 「あなたの知らない日本語講座 —気づかない日本語・方言—」 | 2013 | 国・公・私立小・中・ 高校および特別 支援学校 国語 または英語担当 教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、普段の日常生活で何気なく使っている生活語としての日本語・方言について、気づいていなかったことに気づくことによって、より深く、日本語・方言の良さと大切さを認識する。生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |
| 25 | 文化 | 「国語と英語をつなぐ 「ことば学」入門」 | 2014 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 国語または英語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、国語を英語と比較対照することで、国語の特徴について深く学び、生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座。 |
| 26 | 文化 | 「リカレント教育」講読『源氏物語』— 「若紫」巻 | 2005 | 小・中・高校・ 養護学校教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | 『源氏物語』「若紫」巻を9回で講読した。 |
| 27 | 文化 | 「古典理解のための基礎基本 ことばと文学Ⅰ」 | 2010- | 小・中・高校 国語科教諭 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (教員免許更新講習) 『万葉集』や『源氏物語』など古典文学作品を理解するために必要な、語法や古語と現代語訳との関係、読むための理論などを平易に解説し、講義した。 |
| 28 | 文化 | | 2014 | 小学校外国語 担当の教諭、 中学校、高校の 英語教諭 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (教員免許更新講習) 『万葉集』や『源氏物語』など古典文学作品を理解するために必要な、語法や古語と現代語訳との関係、読むための理論などを平易に解説し、講義した。 |
| 29 | 文化 | 「四字熟語について学ぼう」 (ことばと文学Ⅲ) | 2012- 2014 | 教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (教員免許更新講習) 漢文由来の四字熟語と故事成語について解説を行う。あわせて、日本と中国の四字熟語から見える文化の相違などにも言及する。 |
| 30 | 文化 | 日中交流と漢文学 | 2010 | 県下の現職教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 新学習指導要領でも強調されている「古典を通じて日本と外国(中国)との関係に理解を深める」点に関して、日中の交流を概説し、あわせて日本人の手による漢文を紹介した。 |
| 31 | 文化 | 比べてみよう、日本と中国 | 2012 | 県下の現職教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 日本と中国の文化の差異を、主に言葉の面から講義を行った。 |
| 32 | 文化 | 文学の英語、想像的な読解力による英文講読 | 2012- | 小学校の英語担当 教諭、中・高校の 英語科教諭 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (教員免許更新講習) 英語科教育において、いかに文学テキストは利用可能か。 |
| 33 | 文化 | 日本文化は元気か:理論、講読、 議論 | 2011 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 英語または国語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 文化、異文化との接触、その限界と可能性について、講読をし、議論をする。 |
| 34 | 文化 | 文化理解、異文化理解 —聞く、 読む、話す、exchange | 2012 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 英語または国語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 外国の人と実際に交流をする機会をもって、日本の中の世界と世界の中の日本について話し合う「体験型授業」。 |
| 35 | 文化 | 『出獄追記』精読—植木枝盛と その時代 | 2014 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 英語または国語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 植木枝盛という思想家の書いた文章を通じて、明治時代のより現実的で、身近なイメージをもつことにとむ |
| 36 | 文化 | 文化人類学の観点から「差別」を 読み解く | 2014 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 全教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 民族紛争から微細な差別まで事例をもとに検討し、教育実践に生かす方法をディスカッションで検討した。 |
| 37 | 文化 | 日本神話の世界観 | 2013 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 英語または国語 担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 日本神話の世界観—神話の時間的・空間的な認識の視点からの鑑賞。 |
| 38 | 文化 | 日本と西洋の昔話 —その時代的变化を考える— | 2011 | 国・公・私立の 小・中・高校および 特別支援学校 国語担当教員 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | (高知県教育センターとの共催講座) 日本と西洋昔話・童話の比較を学び、「話型」や時代的变化を考える。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|--|----------------|--------------------------|------------------|--|
| 39 | 看護 | 平成25年度がん看護インテンシブコースⅠ研修～質の高い在宅がん看護実践を創造していく看護師の養成～(がん看護学領域教員) | 2013 | 看護職者 | 高知市 | 在宅移行支援の必要ながん患者や、在宅看取りを希望する家族に対する看護ケアの充実のため、がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅療養の可能性と選択を広げることのできる看護職およびチーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる専門的知識と技術を習得することを目的に、講義・演習・実習をつなげた研修を企画・実施した。 |
| 40 | 看護 | 中国・四国高度がん養成基盤プログラム平成25年度がん高度実践看護師WG講演会 | 2013 | がん患者に関わる医療職(主に看護師) | 岡山県岡山市 | 「がん放射線療法と高度な看護実践」をテーマに、医師1名やがん看護専門看護師4名からの講演を7月と12月の2回シリーズとして企画・実施した。 |
| 41 | 看護 | 認定看護管理者ファーストレベル研修 | 2014 | 看護職者 | 高知市(高知県看護協会) | ヘルスケア提供システムについて |
| 42 | 看護 | 認定看護管理者セカンドレベル研修 | 2012 | 看護職者 | 高知市(高知県看護協会) | 看護管理、プロポーザル、プレゼンテーションについて |
| 43 | 看護 | エキスパート研修 | 2011 | 看護職者 | 高知市(高知県看護協会) | 量的研究方法(統計分析、解析)について |
| 44 | 看護 | 呼吸器・循環器のフィジカルアセスメント～気がかりな症状を手がかりとして(2010・2011)、新人看護職者のためのフィジカルアセスメント(2013) | 2010、2011、2013 | 1～3年目の看護職者 | 高知県立大学池キャンパス | 講義(フィジカルアセスメントの目的、呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントのポイント)、演習(事例を用いたフィジカルアセスメント、呼吸器・循環器の基本的観察技術、シミュレーション演習など) |
| 45 | 看護 | 家族看護学リカレント教育 家族看護に役立つ方略:気持ちを引き出しグループ内の意見を調整する方法 | 2011 | 看護職者(大学院家族看護学領域の修士生・在学生) | 高知県立大学池キャンパス | ファシリテーションの基本的な考え方、気持ち(本音)を引き出すコミュニケーションスキル、合意形成のスキル、演習(対人関係スキル、合意形成におけるファシリテーターの役割) |
| 46 | 看護 | 看護学部公開講座 「新人看護師のためのフィジカルアセスメント」 | 2011、2012 | 経年数1～3年目までの看護職者、教育担当者 | 高知県立大学池キャンパス | 患者の身体状態を知るための方法であるフィジカルアセスメントの知識と技術そして実践現場で活用する方法を講義と演習を通して学ぶ。 |
| 47 | 看護 | 看護協会訪問看護ステーション・医療機関に勤務する看護師の相互研修「在宅におけるフィジカルアセスメント」 | 2011、2013 | 看護師 | 高知県立大学池キャンパス | フィジカルアセスメントの知識と技術を在宅療養者を対象とした看護実践に活用する方法を講義と演習を通して学ぶ。 |
| 48 | 看護 | 平成26年度教員免許更新講習 | 2012- | 小・中・高校養護教諭 | 高知市 | (教員免許更新講習) 教員免許更新制の目的である「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に細心の知識技能を身につけること」ができるように、小児看護領域の観点から、養護教諭が必要とされる、あるいは、必要とする子どものフィジカルアセスメント能力や病いとともに生きる子どもの健康も含めた、指導や対応工夫ができるように講義や演習内容を検討し実施した。 |
| 49 | 看護 | 思春期の子どもの心の問題への対応(精神看護学領域教員) | 2013 | 養護教員 | 高知市 | 『思春期の子ども心の問題への対応(概論)』 『思春期に陥りやすい精神疾患』AD/HDの理解と対応の講義の他、事例を用いた演習を行った。 |
| 50 | 看護 | 高知県新任期保健師研修会(個別指導) 「地区活動の一環としての家庭訪問を考える」 | 2011、2013 | 新任保健師 | 高知県 | 保健師の実施する家庭訪問について。 |
| 51 | 看護 | 高知県新任期保健師研修会(個別指導) 「プロセスレコードの書き方」 | 2011、2013 | 新任保健師 | 高知県 | プロセスレコードの書き方について。 |
| 52 | 看護 | 高知県新任期保健師研修会(個別指導) 『支援者である』ために必要なこと | 2013 | 新任保健師 | 高知県 | プロセスレコードのフィードバックと支援者の姿勢について。 |
| 53 | 看護 | 高知県新任期保健師研修会(個別指導) コミュニケーションを考える 一支援者として、またひとりの人間として対象者と向き合うために | 2011 | 新任保健師 | 高知県 | プロセスレコードのフィードバックとコミュニケーションについて。 |
| 54 | 看護 | 新任保健師育成に係るOJT担当者会新任保健師のOJTを効果的に進めるために | 2011、2013 | 新任保健師を指導する管理者・プリセプター | 高知県 | OJTの進め方。 |
| 55 | 看護 | PDCAの基本を押さえよう | 2013 | 市町村・保健所職員 | 中央西福祉保健所、須崎福祉保健所 | PDCAサイクルについて。 |
| 56 | 看護 | 地区診断につながる保健師活動の視点 | 2013 | 新任保健師 | 中央西福祉保健所 | 保健師の実施する地域診断について。 |
| 57 | 看護 | 東日本大震災 南三陸町における保健師活動とそこから見えてくる各期の課題 | 2012 | 市町村・保健所保健師 | 中央西福祉保健所、保健師長会 | 東日本大震災発災時の保健師活動について。 |
| 58 | 看護 | 高知県事業 教員免許状更新の講習会 | 2012- | 小・中・高校養護教諭 | 高知市 | (教員免許更新講習) 教員免許更新制の目的である「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に細心の知識技能を身につけること」ができるように、小児看護領域の観点から、養護教諭が必要とされる、あるいは、必要とする子どものフィジカルアセスメント能力や病いとともに生きる子どもの健康も含めた、指導や対応工夫ができるように講義や演習内容を検討し実施した。 |
| 59 | 看護 | 「子ども達を守る!!救急時の対応」 小児看護学領域 公開講座 | 2012 | 保育士、小・中・高校養護教諭 | 高知市 | 子どもの救急時(窒息、意識障害等含む)における対応について、AEDの使用や心肺蘇生法を学習した後、高機能シミュレーター人形を用いた実践・参加型の講座を実施した。 |
| 60 | 看護 | せん妄を抱えた高齢者の事例をもとにしたケア検討会 | 2014 | 看護師 | 高知県立大学池キャンパス | 事例をもとにせん妄ケアについて検討を行った。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|---|---------------|--|-------------------|---|
| 61 | 看護 | ケア検討会 | 2014 | 看護師 | 高知県立大学池キャンパス | 参加者から提供された事例をもとにグループワークを行う。 |
| 62 | 看護 | 高知県新任保健師研修会 (地域看護学領域リカレント教育) | 2013 | 新任保健師 | 高知市 | 高知県健康長寿政策課と協働で、高知県新任保健師支援プログラムの一環として、新任保健師(1~4年目)に対する研修の内容及び実施への助言を行い、講師を担当した。 |
| 63 | 看護 | 健康教育のための計画策定 | 2013 | 産業保健従事者 (医師・看護師・保健師・衛生管理者) | 高知産業保健推進連絡事務所 | プリシード・プロシードモデルを活用した、健康教育の計画立案について講義 |
| 64 | 看護 | 新規採用養護教諭研修- 『コーチングによる個別保健指導』と 個別保健指導計画への助言 | 2013 | 養護教諭 | 高知市 | 養護教諭としての使命感を持ち、学校保健などについての基礎的・基本的な知識と専門的な技能を習得するとともに児童生徒の心の健康問題にも対応した健康の保持増進するための実践的指導力を身に付けることを目的として、『コーチングによる個別保健指導』についての講義と、個別保健指導計画に対する助言を受講者へ行う。 |
| 65 | 看護 | 周辺症状を伴う対応困難な認知症患者の理解と看護ケア (精神看護リカレント教育) | 2013 | 精神科看護に従事する看護専門職者 | 高知県西部地区 | 教育機会の少ない高知県西部地区の精神科看護従事者を対象に、精神科看護の知識・スキルの向上を図ることを目的とする。 |
| 66 | 看護 | 看護研究エキスパート育成研修 | 2013 | 看護職者 | 高知市 | 高知県看護協会との連携で開催。 |
| 67 | 看護 | 教員免許状更新講習-思春期の 子どもの心の問題への対応- | 2013 | 養護教諭 | 高知市 | 『思春期の子ども心の問題への対応(概論)』『思春期に陥りやすい精神疾患』『AD/HDの理解と対応』の講義の他、事例を用いた演習を行った。 |
| 68 | 社福 | 福祉・介護サービスにおける 第三者評価 | 2004、 2006 | 社会福祉士、 介護福祉士等 社会福祉専門職等 | 高知市 | (社会福祉学部リカレント講座) 福祉サービスにおける第三者評価の活用と課題、サービスの標準化と評価に係わる政策動向、福祉・介護サービスの評価政策に関する国際的な動向 |
| 69 | 社福 | 生活問題と社会～見えるところ (実践)と見えないところ (社会のしくみ)をつなぐ～ 社会福祉士の連携・ネットワーク づくり | 2008 | 社会福祉士 | 高知市 | (高知県社会福祉士会STEP-UP研修会) これからの社会福祉士に求められる役割として、潜在的な問題を早期発見し問題解決するためのネットワーク構築の必要性について |
| 70 | 社福 | 母子家庭の貧困とエンパワメント | 2008 | 母子自立支援員 | 高知市 | (全国母子自立支援員研修会) 母子世帯が置かれている現状、ワークフェア政策の近年の国際動向と日本の母子世帯施策への影響、貧困の特性とエンパワメントの視点 |
| 71 | 社福 | 「社会福祉の方法・技術」 | 1998 | 大分県生活保護 担当者(経験5年 以上) | 大分県大分市 | ソーシャルワークの共通基盤についての講義と事例を用いた演習 |
| 72 | 社福 | 生涯学習研究開発・地域連携事業: 福祉実務者実践者セミナー | 2000 | 大分県内の社会 福祉機関・施設に 勤務するソーシャル ワーカー | 大分県大分市 | 大分大学生涯学習教育センターとのタイアップによる 卒後教育のための研究会を主催 |
| 73 | 社福 | 複雑事例へのチーム・アプローチ 再考-社会福祉専門職間の連携を 中心に | 2014 | 高知県立大学社会 福祉学部卒業生 | 高知市 | 事例を用いて(演習形式)チーム・アプローチについて 考察する |
| 74 | 社福 | 福祉の仕事とキャリア意識 -大人が学ぶ経験を通して- | 2012 | 高知県身体障害 者(児)施設職員 | サンピアシリーズ (高知市) | 介護福祉分野の人材養成教育や、他分野から介護 福祉に移行した社会人の仕事やキャリアについての 意識など |
| 75 | 社福 | 高知県社会福祉協議会 介護福祉士国家試験受験準備 講座の講師 | 2008- 2010 | 介護職(介護福祉 士国家試験受験 希望者) | ふくし交流プラザ (高知市) | 国家試験科目のうち「介護概論」に試験対策について 講義した |
| 76 | 社福 | 健康長寿設立準備室社会福祉学部 事業 「介護福祉士養成教育公開講座」 | 2010 | 社会福祉・介護福 祉関係者等 | 高知県立大学 池キャンパス | 本学の介護福祉士養成が開始される前年度の事業で あったため、大学における介護福祉教育の特徴に ついて取り上げた。 |
| 77 | 社福 | 「日本社会の変化と介護」 | 2010 | 一般の方々 | 高知県立大学 池キャンパス | 日本社会の変化と共に介護を取り巻く状況がどのように 変化してきたのかを考える。 |
| 78 | 社福 | 「自分らしく生きる」 | 2011 | 一般の方々 | 高知県立大学 池キャンパス | ふれあい体験コーナーを設け「手浴」の体験演習を行う |
| 79 | 社福 | 「ケアのルーツを訪ねて -ナイチンゲールに学ぶ介護論-」 | 2011 | 一般の方々 | 高知県立大学 池キャンパス | ケアとは何か、介護とは何かをナイチンゲールの 「看護覚書」から考える |
| 80 | 社福 | 最期まで寄り添う介護を考える | 2009 | 卒業生、一般 県民、福祉職 | 高知市 | 高齢化の進展、人生を最期まで自己決定できる 生き方を支援するために必要なことについて話した |
| 81 | 社福 | 「生活と人間関係-社会福祉援助 技術の観点から考える-」 | 2003 | 高知県民および 保健医療福祉 専門職 | 高知市 | (社会福祉学部リカレント教育講座) 生活における人間関係について、社会福祉援助技術の 観点から概説した。 |
| 82 | 社福 | 「ソーシャルワークの視点」を考える -エコシステムの発想をもとに- | 2004 | 高知県民および 保健医療福祉 専門職 | 高知市 | (社会福祉学部リカレント教育講座) 社会生活上の問題を取り上げ、ソーシャルワークの 視点やエコシステムの発想によるアセスメントに ついて概説した。 |
| 83 | 社福 | 訪問看護師養成講習会 「関係機関の機能および関係 職種の役割・社会資源」 | 2004 | 高知県看護 協会が主催する 訪問看護師養成 講習会参加者 | 高知市 | 保健医療福祉関係機関の機能および関係職種の役割・ 社会資源について概説した。 |
| 84 | 社福 | 高知県社会福祉士会ケア マネジメント委員会研修 「自分の相談面接技術をみつめる -スキルアップへの基礎演習-」 | 2005 | 高知県社会 福祉士会会員 および保健医療 福祉専門職 | 高知市 | 基礎的な面接技術を概説した後、受講生が面接技術を 自己点検し、面接の実践課題を体験的に学ぶ形式で 行った。 |
| 85 | 社福 | 高知市保育士会職員研修講演 「対人支援職のディレンマについて -ソーシャルワークの視点から- | 2006 | 高知市保育士会 会員 | 高知市 | 対人支援職が実践で抱くディレンマと、それを克服する 子どもや保護者への接し方について演習形式で 行った。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|--|---------------|--|---------------------------|---|
| 86 | 福祉 | 医療法人 仁生会 SW連絡会 全体会議講演 「エコシステム視座による「連携」と ソーシャルワーカーの役割」 | 2006 | 医療ソーシャル ワーカー・看護師・ 理学療法士 | 高知市 | 保健医療福祉における多職種連携について、理論的 位置づけを整理し、実践課題を概説した。 |
| 87 | 福祉 | 高知県社会福祉士会STEP-UP 研修「コミュニケーション・スキルの 活かし方(1)」 | 2007 | 高知県社会 福祉士会会員および 保健医療福祉 専門職 | 高知市 | 基礎的な面接技術を概説した後、事例を通して 受講生がコミュニケーション・スキルを体験的に学ぶ 形式で行った。 |
| 88 | 福祉 | 高知県児童福祉司認定講習会 「社会福祉援助技術論」、 「社会福祉援助技術演習」 | 2008- 2013 | 高知県児童 福祉司認定 講習会受講者 (保健医療福祉 専門職) | 高知市 | 児童福祉司に不可欠な社会福祉援助技術の理論と モデル、アプローチ、面接技法について概説した。 また演習形式で児童福祉の事例検討を行った。 |
| 89 | 福祉 | 高知県スクールソーシャルワーカー 活用事業について | 2008、 2009 | 小学校、中学校 校長、教頭、指導 主事など | 四万十市、 宿毛市、黒潮町、 四万十町 | スクールソーシャルワーカー活用事業の特徴および スクールソーシャルワークについて概説した。 |
| 90 | 福祉 | 高知県保育士会家族ソーシャル ワーク学習会 「保育と家庭支援をつなぐソーシャル ワーク」 | 2008 | 高知県保育士会 会員 | 高知市 | 保護者や家庭との関わり方、ソーシャルワークの面接 技法について、事例をもとに演習形式で行った。 |
| 91 | 福祉 | 高知県社会福祉士会主催 相談援助職ソーシャルワーク研修会 「社会福祉士」資格と今後の展望 ー社会福祉士への応援メッセージ | 2009 | 高知県社会 福祉士会会員 および保健医療 福祉専門職 | 高知市 | 社会福祉士資格制度の動向について概説し、今後の 展望について参加者とともに意見交換を行った。 |
| 92 | 福祉 | 高知県医療社会事業協会研修会 「よりよい援助活動のためのヒント」 | 2009 | 高知県医療社会 事業協会会員 | 高知市 | 参加者が、相談援助の力量についてセルフチェックし、 自己覚知を通して自らの課題を整理した。その上で、 よりよい援助活動のためのヒントを概説した。 |
| 93 | 福祉 | 2009年度四万十市教育相談 研究会 「児童生徒のサインに気づく ー解決志向アプローチの紹介ー」 (全4回) | 2010 | 四万十市教育 相談研究会 メンバー (四万十市の 小・中学校教員、 スクールソシ アルワーカー) | 四万十市 | 児童生徒のサインに気づく方法について、教育相談 研究会メンバーと協議しながら、学習を行った。また、 関わり方のヒントとして解決志向アプローチを紹介した。 |
| 94 | 福祉 | 中土佐町高齢者虐待防止学習会 「高齢者虐待における家族の 支援について」 | 2011 | 中土佐町の地域 包括支援センター 職員など保健医療 福祉専門職 | 中土佐町 | 高齢者虐待における家族の支援について、事例をもとに 演習形式で学びを深めた。 |
| 95 | 福祉 | 中土佐町久礼小学校校内研修会 「スクールソーシャルワークの 専門性と支援方法ー組織で対応 するためにー」 | 2011 | | 中土佐町 | スクールソーシャルワーカー活用事業の特徴および 地域特性を活かしたチームアプローチについて概説 した。 |
| 96 | 福祉 | 高岡地区市町村教育委員会連合会 第4回教育支援部会研修 「悩みを抱える児童生徒、保護者、 教師への支援ー学校と家庭・地域を つなぐアプローチー」 | 2012 | 高岡地区市町村 教育委員会連合会 教育支援部会員 | 中土佐町 | 悩みを抱える児童生徒、保護者、教師への支援、 スクールソーシャルワーカー活用事業の特徴および 地域特性を活かしたチームアプローチについて概説 した。 |
| 97 | 福祉 | 中土佐町高齢者虐待防止学習会 「高齢者虐待における事例検討に ついて(中土佐町高齢者虐待防止 ネットワーク)」 | 2012 | 中土佐町高齢者 虐待防止ネット ワークに所属する 保健医療福祉 専門職 | 中土佐町 | 高齢者虐待防止ネットワークにおいて対応すべき、 高齢者虐待事例について参加者とともに演習形式で 検討し、課題を整理した。 |
| 98 | 福祉 | 中土佐町高齢者虐待防止学習会 「高齢者虐待における事例検討に ついて(民生委員対象)」 | 2012 | 中土佐町内の 民生委員 | 中土佐町 | 高齢者虐待事例について、参加者とともに演習形式で 検討し、課題を整理した。 |
| 99 | 福祉 | 土佐清水市教育センター研修会 「発達障害をもつ子どもへの支援 ー子どもや保護者の支援、関係 機関の連携ー」 | 2012 | 土佐清水市内の 小中学校教員 | 土佐清水市 | 発達障害をもつ子どもへの支援について、子どもや 保護者の支援、関係機関の連携を取り上げて概説した。 |
| 100 | 福祉 | 高知県医療ソーシャルワーカー協会 大会 「仕事に行き詰まったら事例研究を してみませんか」 | 2012 | 高知県医療 ソーシャルワー カー協会会員 | 高知市 | 医療ソーシャルワーカーが関わっている実際の事例を 通じて、参加者とともに事例研究を行いながら、事例 研究の方法について概説した。 |
| 101 | 福祉 | 高知県精神保健福祉士協会新人 研修 「事例検討研修会」 | 2012 | 高知県精神保健 福祉士協会 会員のうち 新人研修参加者 | 高知市 | 精神保健福祉士が関わる事例を通して、事例研究を 行いながら、困難事例に対する事例研究の方法に ついて概説した。 |
| 102 | 福祉 | 高知県社会福祉協議会・ 平成25年度総合相談・ 生活支援研修会 「地域で展開する個別生活支援」 | 2013 | 高知県内の社会 福祉協議会など 保健医療福祉 専門職 | 高知市 | 地域で展開する個別生活支援について、事例検討や 面接技法などを取り上げて演習形式で行った。 |
| 103 | 福祉 | 高知県医療ソーシャルワーカー 協会・基礎研修 「社会福祉・社会保障をめぐる動向、 諸制度の変遷」 | 2013 | 高知県医療 ソーシャルワー カー 協会会員のうち | 高知市 | 医療ソーシャルワーカーが理解すべき社会福祉・ 社会保障をめぐる動向、諸制度の変遷について、 概説した。 |
| 104 | 福祉 | 社会福祉主事資格認定通信課程 「社会福祉援助技術論・演習」 | 2005- 2014 | 社会福祉専門職 等 | 神奈川県・三浦郡 | 社会福祉主事として、必要不可欠なソーシャルワークの 価値・知識・技術について、講義と演習を通して理解を 深めることができるように展開した。 |
| 105 | 福祉 | ソーシャルワーク・アセスメントの スキルアップー生活の視点からー | 2006 | 社会福祉専門職 等 | 高知市 | ソーシャルワーカーに求められるエコシステム視座に 基づくアセスメント方法について、コンピュータ支援 ツールを用いた演習形式で実施した。 |
| 106 | 福祉 | コミュニケーションスキルの活かし方 | 2007 | 社会福祉士 | 高知市 | 社会福祉士として、必要不可欠なソーシャルワークの 基礎と面接技法について、演習を通して理解を深める ことができるように実施した。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|---|----------------|------------------------------------|--------------------------|---|
| 107 | 社福 | ソーシャルワークにおける理論と方法を考える | 2011 | 社会福祉専門職 | 宿毛市 | ソーシャルワーカーに期待される専門性の基礎を確立するための理論と方法に関して、講義・演習を通して理解を深めることができるように展開した。 |
| 108 | 社福 | 社会福祉と基本的人権 | 2012、2013 | 要約筆記者 | 高知市、高岡郡 | 要約筆記者養成の一講座として、社会福祉と基本的人権に関する知識について、講義と演習を通して理解を深めることができるように実施した。 |
| 109 | 社福 | 社会福祉事業の知識 | 2012 | 要約筆記者 | 高知市 | 要約筆記者養成の一講座として、社会福祉事業に関する知識について、講義と演習を通して理解を深めることができるように実施した。 |
| 110 | 社福 | 虐待・いじめ・不登校防止に向けて—ソーシャルワークの関わりを参考に— | 2012 | 学校教諭・社会福祉専門職等 | 高岡郡 | 虐待・いじめ・不登校防止に向けたソーシャルワークの関わり方を中心とする支援方法について、講義と演習を通して理解を深めることができるように実施した。 |
| 111 | 社福 | 学校現場の状況とスクールソーシャルワーカーの役割 | 2013 | 民生委員・児童委員 | 室戸市 | 学校現場の状況と発達障害に関する基礎的な知識、そしてスクールソーシャルワーカーの役割について、講義を中心として理解を深めることができるように実施した。 |
| 112 | 社福 | 対人支援 | 2013 | 要約筆記者 | 高知市、高岡郡 | 要約筆記者養成の一講座として、対人支援に関する知識と技術について、講義と演習を通して理解を深めることができるように実施した。 |
| 113 | 社福 | 社会福祉の基礎知識Ⅰ | 2013 | 要約筆記者 | 高知市 | 要約筆記者養成の一講座として、社会福祉に関する基礎的な知識(制度的・実践的側面)について、講義と演習を通して理解を深めることができるように実施した。 |
| 114 | 社福 | 地域福祉を考える—ソーシャル・キャピタルの視点から— | 2013 | 福祉専門職 | 高知市 | 地域福祉について、社会福祉の中での位置づけや定義、現状などについて説明した。また、ソーシャル・キャピタル論について事例を挙げて開設した。 |
| 115 | 社福 | 地域で孤立を防ぐ—民生児童委員の役割— | 2013 | 福祉専門職(民生児童委員) | 須崎市 | 社会的孤立の現状と課題について説明し、その中の民生児童委員の役割について説明した。 |
| 116 | 社福 | 閉じこもりがちな高齢者—高齢者の孤立— | 2013 | 福祉専門職 | 高知市 | 高齢者の社会的孤立の現状と課題について説明し、その中の福祉専門職の役割について説明した。 |
| 117 | 社福 | 「多職種連携での退院支援・調整」 | 2012-2014(年5回) | 看護職、ソーシャルワーカー | 東京、札幌、福岡、名古屋、大阪 | 多職種連携の考え方をういた退院支援の在り方や退院支援システム作り |
| 118 | 社福 | 「交通事故被害者生活支援教育研修」 | 2012-2014 | 社会福祉士、医療ソーシャルワーカー | 東京、大阪 | 交通事故の被害者への支援の在り方、用いる社会資源の解説 |
| 119 | 社福 | 「がんの療養を支える社会資源」 | 2013 | 医師 | 東京都品川区 | がんの療養を支える社会資源について医師を対象に、適用範囲や手続きなどを簡潔に伝えるもの。 |
| 120 | 社福 | 「障害」とは何か?—社会に潜む差別に気づく | 2013 | 福祉専門職・地域住民・高校生 | 高知県立大学池キャンパス | 「障害」に対する新しい見方を紹介し、どのようなことが「差別」に当たるのかを解説するとともに、どのように気づき改善していけばよいかについて考えた。 |
| 121 | 社福 | 社会福祉の基礎知識Ⅱ | 2013 | 要約筆記者 | 高知市、高岡郡 | 要約筆記者養成の一講座として、障害福祉に関する法律や制度について解説した。 |
| 122 | 社福 | 人材定着のマネジメント—高業績の人材をいかに定着させるか | 2011 | 医療・福祉関係者 | 高知市 | 統計データに基づいた介護職の離職率の現状、離職の理由、人材が定着し育つ職場の特徴、および定着策の具体例など、スライドを用いて様々な視点から詳細な解説を行った。 |
| 123 | 社福 | 「楽々介護入門」 | 2010 | 社会人一般 | 高知県立大学池キャンパス | 基本的な生活支援技術を学ぶ |
| 124 | 社福 | 腰痛予防対策指針の改定とリフトの導入 | 2014 | 介護従事者等 | 高知県立大学池キャンパス | 職場における腰痛予防対策指針改定のポイントとリフトの活用方法を学ぶ |
| 125 | 社福 | 持ち上げない介護 | 2013 | 介護従事者等 | 高知県立大学池キャンパス | 道具を使用し腰痛対策を考慮した介護の方法について |
| 126 | 社福 | ケアマネジメントの「中核技術」を測る—Work Indexを用いた自己研鑽 | 2014 | 福祉専門職 | 高知県立大学池キャンパス | ケアマネジメントを運用する上で必要となる技術の自己評価について |
| 127 | 健栄 | 睡眠とインスリン抵抗性・肥満との関係について | 2009 | 家庭科教諭 | 津野中学校 | |
| 128 | 健栄 | | 2014 | 中・高の家庭科教諭 | 高知県立大学池キャンパス | (教員免許更新講習)ライフステージと食の特徴、食と健康、生活習慣病予防について |
| 129 | 健栄 | 家庭的保育の研修講義 | 2014 | 無認可保育園の施設長および職員 | 高知県立大学池キャンパス | 子供の栄養管理について |
| 130 | 健栄 | 高知県栄養士会 生涯教育基本研修「栄養素の消化と吸収」 | 2014 | 栄養士、管理栄養士 | 高知市 | 栄養素の消化、吸収、代謝について |
| 131 | 健栄 | 岡山県市町村栄養士研究協議会備南ブロック研修会「食物アレルギーの実践について」 | 2011 | 管理栄養士 | 岡山県・総社市 | 食物アレルギーの現状、食物アレルギー反応の成り立ち、診断方法について |
| 132 | 健栄 | | 2011 | 中・高校家庭科教諭 | 高知県立大学池キャンパス | (教員免許更新講習)咀嚼・嚥下について |
| 133 | 健栄 | 「災害支援活動から考える管理栄養士養成」 | 2012 | 行政等栄養士会所属管理栄養士 | 高知市あんしんセンター | 東北震災時の栄養士会からの災害支援派遣活動について |
| 134 | 健栄 | 衛生管理研修 | 2013 | 給食センター勤務栄養教諭・調理員特別養護老人ホーム管理栄養士・調理員 | 土佐市社会福祉事業団 特別養護老人ホームとさの里 | 最近の食中毒事例から発生の傾向、調理中のインシデント・アクシデントを防ぐには |
| 135 | 健栄 | 「食物アレルギーの現状と対策～安全な生活のために～」 | 2013 | 市関係者・保育園園長 | 土佐市社会福祉事業団 特別養護老人ホームとさの里 | 食物アレルギーの機序、各保育園におけるアレルギー事故防止の取り組み |
| 136 | 健栄 | 食品加工生産高度化研修特別講座 大量調理 | 2013 | 食品加工会社品質管理担当者 | 高知県立大学池キャンパス | 給食経営管理実習室を用い、監査を受ける際の作業上のポイントを解説 |
| 137 | 健栄 | こんな嚥下食ご存じですか? | 2012 | 施設管理栄養士等 | 高知県立大学池キャンパス | ポットで作れる簡単嚥下食および中華料理を使った嚥下食の実習 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|---|-----------|--------------------------|-----------------------------|--|
| 138 | 健康 | 幼児期の栄養管理 | 2011 | 保育士と保護者 | 大川村つぼみ保育園(高知県大川村) | 幼児期の食生活は、身体や運動能力の発達に影響を及ぼすため、食べ物の好き嫌いをなくす調理法や幼児の消化力・咀嚼力に合った食材を紹介 |
| 139 | 健康 | 自治体で備蓄されている災害食の現状(食物アレルギー患者への対応) | 2011 | 防災の関係者(自治体・管理栄養士・食品会社など) | 高知市・かるぼ一と | 管理栄養士として災害時にどのような食生活支援ができるのか、また今後の自治体の災害対策として、どのような災害食を準備すべきかを報告。 |
| 140 | 健康 | 災害と食に関すること | 2011 | 学校に勤務する管理栄養士・栄養士 | 高知学園短期大学 | 管理栄養士として災害時にどのような食生活支援ができるのか、また災害時の学校給食の対策として、どのような災害食を準備すべきかを報告。 |
| 141 | 健康 | 自治体および教育機関における備蓄食料に関する調査について | 2011 | 管理栄養士・栄養士 | 高知県総合保健協会 | 管理栄養士として災害時にどのような食生活支援ができるのか、また、公立大学の災害対策として、どのような災害食を準備すべきかを報告した。 |
| 142 | 健康 | 自治体の食糧備蓄に関する全国調査について | 2012 | 管理栄養士・栄養士 | 総合あんしんセンター | 管理栄養士として災害時にどのような食生活支援ができるのか、自治体の食糧備蓄に関する全国調査の結果報告からデータを分析し、検討内容を報告。 |
| 143 | 健康 | 災害発生後の栄養管理と災害食の選定方法 | 2012 | 高知県女性防火クラブ所属の方 | 梶原町 | 災害発生後の避難所における食生活の現状を石巻市の食支援の活動報告を通して、南海大地震に備えどのような食事を備蓄しておくべきかを指導した。また、乳幼児や高齢者など災害時要援護者の食支援について臨床栄養の面からサポートする方法を説明 |
| 144 | 健康 | 非常時の食と健康 | 2013 | 中国・四国地区乳児院に勤務する方 | 愛媛県松山市 | 災害発生後の避難所における食生活の現状を石巻市の食支援の活動報告を通して、南海大地震に備えどのような食事を備蓄しておくべきかを指導した。また、乳幼児や高齢者など災害時要援護者の食支援について臨床栄養の面からサポートする方法を説明した。 |
| 145 | 健康 | 専門分野(糖尿病)における質の高い看護師育成事業講義『食事療法の支援のための基本』 | 2013- | 看護師 | 高知市 | 糖尿病食事療法の概論および糖尿病患者への行動変容の変化ステージモデルを活用した継続的な食事療養指導について、実際の症例紹介を交えて講演した。 |
| 146 | 健康 | SDM研究会『本院での教育入院における栄養指導で私たちが心掛けていること』 | 2010 | 医師 | 高知市・須崎市など計7ヶ所 | 実際の症例を提示しながら糖尿病の食事療法の基本と実際の栄養指導の内容、および栄養指導における地域連携への展開について講演した。 |
| 147 | 健康 | 高知県歯科医師会研修会『当院における糖尿病栄養指導の実際～地域連携への展開～』 | 2010 | 歯科医師 | 高知市 | シンポジストとして、糖尿病教育入院と栄養指導の実際を紹介した。 |
| 148 | 健康 | 日本栄養士会生涯学習研修会糖尿病シンポジウム『高知医療センターにおける糖尿病教育入院について』 | 2005 | 栄養士、管理栄養士 | 高知市 | 室戸海洋深層水の特性や利用技術について、地域先端研究(平成10～13年度)の成果等もふまえて、やや専門的な内容も織り交ぜながら紹介する。理科、社会科、家庭科や総合的な学習の時間などの題材として役立つように室戸海洋深層水に対する理解を深める。 |
| 149 | 地教研 | 室戸海洋深層水の特性とその利用 | 2002 | 小・中・高校の教員 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | 高知女子大学でのインターネット活用事例を紹介しながら、小・中・高校の教員による今後のインターネット利用の方向性や留意点を概説する。 |
| 150 | 地教研 | 通信ネットワーク講座「ネットワーク利用で広がるコミュニケーション」 | 1997 | 小・中・高・特殊教育諸学校の教職員 | 高知県教育センター分館 | 中学校の技術家庭科教育向けに、中学校の家庭科住領域でとりあげてほしい内容についてや、教師自身も持っているべき住宅・住環境にかんする認識等について、解説した。 |
| 151 | 地教研 | 中学校技術家庭科教育・研修講座、1995「住生活の学習指導と課題」、1996～1997「北海道の住生活の現状と課題」 | 1995-1997 | 中学校技術家庭科教諭 | 北海道江別市 | 住宅・住環境が福祉の基礎として重要であることの認識形成のための講話と、高等学校の住領域でとりあげるべき居住福祉関連の内容等についての解説、などをおこなった。 |
| 152 | 地教研 | 高等学校家庭科教育・研修講座、1997「高齢化社会における住生活の問題」、1998「北国の住生活と住環境の学習指導方法」、1998「居住福祉の現状と課題」、1999「北国の居住福祉と住生活の指導」 | 1997-1999 | 高等学校家庭科教諭 | 北海道江別市 | |
| 153 | 地教研 | 四国住まい・まち・環境教育研修会(テーマは毎回異なる)、2007「体験学習:1人暮らしの住まい選び」体験学習:簡単な紙模型を使ったまちづくりワークショップ」、2008「教材解説1:日本各地の住まい」、「教材解説2:家を建てるといことー暮らしにあわせた住まいづくり」、2009「実技研修:住まいづくりワークショップ」、2010「教材解説:住まいの環境と環境問題」「実技研修:住まいづくりワークショップ」、2011「教材解説:住まいと健康」、2012-2013「講演:住教育の重要性と教師の住教育力」「教材解説:家族の暮らしと住まい」 | 2007- | 小・中・高校の家庭科教諭 | 高知県高知市・愛媛県松山市・香川県高松市・徳島県鳴門市 | 主として中学校・高等学校の家庭科でおこなう住領域授業の内容・方法等について、独自開発教材などを用いて、実践的な内容(参加教師が、その内容をもちかえって、すぐに実施できる、授業にとりいれられる、など)での研修をおこなっている。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 職種等 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|--|-----------|-----------------|---|--|
| 154 | 地教研 | 北海道住まい・環境教育研修会(テーマは毎回異なる)、2000「高齢者・障害者と暮らす福祉環境づくりを考える」、2001「北国の気候風土と生活に配慮した住まいづくりを考える」、2003-2004「中学校・高等学校の住居領域の学習でたいせつなこと」、2005「スライドで学ぶ北海道の住まいと生活」「ペーパークラフトを使ったまちづくりワークショップ」、2006「北海道の住まいと生活の特徴」「結露発生のしくみ」、2007「住居領域学習の今日的意義」、2008「日本各地の住まいとその特徴」「北海道の住まいとその特徴」、2009「住まいのなかの事故とバリアフリー」「住まいと地震安全対策」、2010「住まいの環境と環境問題」、2011「住教育の意義・大切さ・効果と教師の住教育力」「教材解説1:住まいのなかの電磁波と健康」「教材解説2:生活のなかの放射線と健康」、2012「講演:住教育の重要性と教師の住教育力」「教材解説:家族の暮らしと住まいー住まいの基礎知識を中心としてー」、2013「住教育(住領域授業)の悩み解決ワークショップ(グループワークによる)」 | 2001- | 小・中・高校の家庭科教諭 | 北海道札幌市、北海道旭川市、北海道帯広市、北海道釧路市、北海道北見市、北海道函館市 | 主として中学校・高等学校の家庭科でおこなう住領域授業の内容・方法等について、独自開発教材などを用いて、実践的な内容(参加教師が、その内容をもちかえって、すぐに実施できる、授業にとりいれられる、など)での研修をおこなっている。 |
| 155 | 地教研 | 寒地建築技術講習「北方型住宅の計画」 | 1991 | 住宅の設計者・施工技術者 | 北海道小樽市および北海道倶知安町 | 北海道が作成した北方型住宅基準の、計画の技術的な解説をおこなったもの。 |
| 156 | 地教研 | 小樽市異同大学講座「住居計画の問題点」 | 1992-1993 | 住宅の設計者・施工技術者 | 北海道小樽市 | 北海道の気候風土の特徴をふまえた住居計画の基本的な考え方について、当時の最新の研究成果にもとづく解説をおこなったもの。 |
| 157 | 地教研 | 北海道私学教育教科別研修会・家庭科「北国のこれからの住教育と協働教育の理論と実践」 | 2004 | 私立の中・高校の家庭科教諭 | 北海道札幌市 | 北海道の気候風土の特徴をふまえた住居計画の基本的な考え方について、当時の最新の研究成果にもとづく解説をおこなったもの。 |
| 158 | 地教研 | 高知県香美郡家庭科部会研修会「住居領域の学習でたいせつなことと授業案の提案」 | 2005 | 中・高校の家庭科教諭 | 高知市 | 高知県香美郡家庭科部会の要請でおこなった研修会。住まい・まち・環境教育の意義・特徴・課題、住み手の立場でたいせつな3つの視点、協働型で学ぶ主体・体験・交流のある学び、ワークショップで学ぶ、などのテーマで、講義・体験授業・授業実践事例紹介、などをおこなったもの。 |
| 159 | 地教研 | 「家庭科教育をとおして子どものプライバシーにどう向き合うか」 | 2007 | 小・中・高校家庭科教諭 | 東京都 | 家庭科教育・領域「家庭生活」におけるプライバシーの取り扱い方について |
| 160 | 地教研 | 教職員研修「児童・生徒の健全な発達のための支援と対応」 | 2006、2007 | 小・中・高校家庭科教諭 | 東京都 | 生徒対応の在り方について学校組織から考える(事例検討) |
| 161 | 地教研 | 教職員研修「ロールプレイングの実践」 | 2005 | 小・中・高校家庭科教諭 | 東京都 | ロールプレイングをとおして具体的な事例への対応を考える(ロールプレイ) |
| 162 | 地教研 | 家庭科教員リカレント講座 | 2011 | 高知県内の中学・高校家庭科教員 | 安芸市、高知市、四万十市 | 土佐の食と土佐茶、高知の伝統食の新たな展開、高齢者のための着こごちの追及、新しい繊維、行動する思想家・植木枝盛を自由民権記念館で学ぶ |
| 163 | 地教研 | 公益財団法人 高知県生活衛生営業指導センター主催のクリーニング師研修会 | 2013 | クリーニング師 | 高知市 | 繊維及び繊維製品 |
| 164 | 地教研 | 平成23年度高知大学教員免許状更新講習被服学 | 2011 | 中高家庭科教員 | 高知市 | 被服と環境 |

4. 今後可能な「リカレント講座」

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 職種等 | 内容 |
|----|---------|---|--|---|
| 1 | 文化 | 教材作りに活かせるICT利用技術の基本 | 国・公・私立小学校、中学校、高校英語担当教員 | 情報通信技術を利用した教材開発のノウハウ。 |
| 2 | 文化 | コーパス言語学の言語教育への応用 | 国・公・私立小学校、中学校、高校英語担当教員 | コーパス言語学の分野で使われているソフトウェアを利用し、用例の検索、使用語一覧を作成する方法をマスターし、教科書の発展的な利用法や授業用のタスク教材の開発を考察する。 |
| 3 | 文化 | 音声分析から音声指導へ | 国・公・私立小学校、中学校、高校英語担当教員 | 音声分析用ソフトウェアを使いながら音響音声学の基本を学ぶと共に、音声素材を教材化する方法を学ぶ。 |
| 4 | 文化 | 実績に準じる | | |
| 5 | 文化 | 自然災害、地域防災、地球科学 | 小・中・高の教員(児童・生徒とも) | 南海地震、気象災害、地域防災、地球科学全般についての解説・授業。 |
| 6 | 文化 | 人工衛星による地球観測 | 小・中・高の教員(児童・生徒とも) | 人工衛星による地球観測についての解説・授業。 |
| 7 | 文化 | 国語と英語をつなぐ「ことば学」入門 Part2 | 国・公・私立の小・中・高校および特別支援学校 国語または英語担当教員 | 国語教育に求められているコミュニケーション能力を高めるため、国語を英語と比較対照することで、国語の特徴について深く学び、生活語力の向上をめざした理論を理解し、実践的能力を養うための講座の第2弾。 |
| 8 | 文化 | 古典理解のための基礎(『源氏物語』『土左日記』など) | 小・中・高等学校教員 | 『源氏物語』など古典文学作品を理解するために必要な、語法や古語と現代語訳との関係、読むための理論および、作品じたいの講読。 |
| 9 | 文化 | 漢字・漢詩・漢文全般について | 一般、小・中・高校の教諭 | 漢字、漢詩、漢文全般について。中国の文化、日中比較文化について。 |
| 10 | 文化 | 文学の英語、想像的な読解力による英文講読 | 小学校の英語担当教諭、中・高校の英語科教諭 | 英語科教育において、いかに文学テキストは利用可能か。 |
| 11 | 文化 | 万葉集の名歌を読む(万葉集入門) | 国・公・私立小学校、中学校、高校国語担当教員 | 『万葉集』入門や名歌の鑑賞。 |
| 12 | 文化 | 日本神話の世界観 | 国・公・私立小学校、中学校、高校国語担当教員 | 日本神話の世界観—神話の時間的・空間的な認識の視点からの鑑賞。 |
| 13 | 文化 | 日本と西洋の昔話—その時代的变化を考える— | 国・公・私立小学校、英語または国語担当教員 | 日本と西洋昔話・童話の比較を学び、「話型」や時代的变化を考える。 |
| 14 | 看護 | 看護におけるシミュレーション教育 | 臨床現場で教育を担当する看護職者、看護教員等(対象にあわせて内容の調整可能) | 看護を学ぶ方法として、あるいは患者安全のためにシミュレーション教育を効果的に活用する方法について、参加型で行う。 |
| 15 | 看護 | 健康増進計画の推進方法 | 市町村・保健所職員 | 健康増進計画の推進について。 |
| 16 | 看護 | 看護管理学リカレント 質改善、QCサークル活動 | | |
| 17 | 看護 | クリティカルケア | | |
| 18 | 看護 | がん治療後のリンパ浮腫のケア | 看護職 | リンパ浮腫の予防や発症後のケアについて |
| 19 | 看護 | 教員免許更新の講習会 | 養護教員 | 学校におけるフィジカルアセスメント |
| 20 | 社福 | イギリス福祉・介護サービスのアウトカム評価 | 社会福祉事業所・介護事業所の職員 | サービス評価の意義と役割、評価指標の種類と特性、アウトカム評価に係わる国際動向と代表的指標 |
| 21 | 社福 | 医療・福祉サービスと行政評価 | 行政職員 | 行政評価を医療・福祉サービスに適用する際の課題と評価手法の改善について |
| 22 | 社福 | 先方の希望に応じて、対応可能か否か考慮(単発のものより、ある程度継続的なもの) | ソーシャルワーカー | 目的を伝えてもらい、企画から参加させてもらう形を希望 |
| 23 | 社福 | 認知症の理解及び介護 | 高校生、一般市民、福祉職 | 症状及び介護の方法など |
| 24 | 社福 | 社会福祉・社会保障の動向と保健医療福祉専門職の支援について | 保健医療福祉専門職など | 社会福祉・社会保障の動向をふまえながら、保健医療福祉専門職の支援について講義または演習形式で研修を行う。 |
| 25 | 社福 | 地域で展開する個別生活支援について | 保健医療福祉専門職など | 事例検討や面接技法などを取り上げて講義または演習形式で研修を行う。 |
| 26 | 社福 | ソーシャルワークの支援方法について | 社会福祉士や精神保健福祉士などソーシャルワーカー | ソーシャルワークの事例検討などを取り上げて講義または演習形式で研修を行う。 |
| 27 | 社福 | ソーシャルワークにおける理論と方法 | 社会福祉専門職等 | ソーシャルワーカーの専門性の基礎となる理論と方法の獲得を目標に、講義や演習を実施する。 |
| 28 | 社福 | スクールソーシャルワーカーの役割と機能 | 学校教諭・社会福祉専門職等 | 小・中学校を中心として、活動するスクールソーシャルワーカーの役割と機能について、講義もしくは演習をとらして理解を深められるように実施する。 |
| 29 | 社福 | 地域福祉について | 福祉専門職 | 地域福祉に関する近年の動向、考え方、実践方法等について |
| 30 | 社福 | 「地域包括ケアの中での退院支援」 | 医療・介護の専門職 | 多職種連携の考え方をういた退院支援の在り方や退院支援システム作り |
| 31 | 社福 | 「関係作りを重視した傾聴技法・面接法」 | 医療・介護の専門職・ボランティア | マイクロカウンセリングやコーチングのスキルを使った傾聴法を演習などで学ぶ |
| 32 | 社福 | 介護サービス事業所の人的資源管理施策 | 福祉関係者 | 介護サービス組織におけるサービス・クオリティを向上させる適切な人材マネジメント施策等について、調査データを用いて実証的に明らかにし、人的資源管理施策などについて解説する。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 職種等 | 内容 |
|----|---------|------------------------------|-----------------------|---|
| 33 | 社福 | 高齢者の看取り | 介護職員 | 穏やかな最期を迎えるためのケアについて |
| 34 | 社福 | スクールソーシャルワーカーの役割と実践 | 小学校・中学校教員 | 社会福祉専門職として学校現場で実践するスクールソーシャルワーカーの視点や役割について解説し、不登校や家庭環境の問題などをかかえた子どもに対して、教師とスクールソーシャルワーカーがいかに協働して子どもを支援していくことができるかを、事例検討などをとおして考える。 |
| 35 | 社福 | 医療福祉関連 | リカレント | 医療機関で働くソーシャルワーク業務について |
| 36 | 社福 | 介護技術 | 介護従事者及び介護に従事しようとする者 | 介護技術の基本から応用(持ち上げない介護など)まで介護技術の基本から持ち上げない介護など、対象受講者に合わせてある程度のことは可能 |
| 37 | 社福 | ケアマネジメント技術教育について | 福祉専門職 | ケアマネジメント技術の評価、教育のあり方について |
| 38 | 健栄 | 実績に準じる | | |
| 39 | 健栄 | 教員免許状更新講習 | 中・高の家庭科教諭 | 食の意義について |
| 40 | 健栄 | 食物アレルギーの現状 | 学校栄養職員、栄養教諭 | 食物アレルギー反応の成り立ちおよび予防、診断方法、主要原因食品の現状について |
| 41 | 健栄 | 基礎栄養学 | 栄養士、管理栄養士 | 栄養素の消化・吸収、代謝について |
| 42 | 健栄 | 大量調理施設における衛生管理研修 | 給食施設勤務管理栄養士・栄養士・調理従事者 | なぜ衛生管理が大切なのか？事例をもとに大学施設を使いながら、ムダな作業を見直しながら衛生管理のポイントを学ぶ。 |
| 43 | 健栄 | 食事でもっと満足 低栄養予防 | 給食施設管理栄養士 栄養教諭・家庭科教諭 | 各ライフステージごとにみられる低栄養について考察する。また高齢者が避けがちな肉料理を調理技術等で食べやすくし、低栄養を予防する実習を行う。 |
| 44 | 健栄 | 糖尿病患者への食事療養指導 | 医療関係者 | 行動変容をもたらず栄養指導の理論と実際 |
| 45 | 地教研 | 海洋の科学 | 小中高校理科教員 | 理科の正課でありあまり触れられていない海洋に関する重要事項を概説し、他の単元の内容との関わりを考える。 |
| 46 | 地教研 | 科学計測と単位 | 小中高校理科教員 | 量の表現と計算を国際標準であるSIの考え方に基づいて行うことによって、量とその計算の取扱いが簡単になることを解説し、このことを学校教育の中でどう教えていくかを共に考える。 |
| 47 | 地教研 | ニセ科学と科学リテラシー | 小中高校理科教員 | 小中生の理科学力に関する国際的調査の結果とニセ科学に対する認知の状況を比較しながら、児童・生徒の科学リテラシーの現状を分析し、理科教育の課題を考える。 |
| 48 | 地教研 | 住宅・住環境の機能・重要性和家庭科住領域で実施すべき内容 | 小・中・高校家庭科教諭 | 教師自身が住宅・住環境の重要性等について再認識できるように、日本の住宅事情・住宅政策等とヨーロッパ先進諸国のそれらとを比較しつつ解説し、中学校・高等学校でおこなうべき住領域授業の内容・方法等について、じっさいの授業形式での研修もふくめて、実践的な内容でおこなう。 |
| 49 | 地教研 | 教師の住教育力と生徒への教育効果 | 中・高校家庭科教諭 | 住教育力とはなにか、現在の家庭科教諭の住教育力の現状、教師の住教育力とその生徒への教育効果、などについて、調査データを用いて実証的に明らかにし、家庭科教諭の住教育力のあり方、形成のしかた、などについて解説する。 |
| 50 | 地教研 | 「アートセラピー」 | 教諭・保育者 | スクイグル、コラーージュ、風景構成法 |
| 51 | 地教研 | 「対人コミュニケーション」 | 教諭 | エゴグラム、交流分析、アサーション、構成的エンカウンター |

IV. 公開講座

5. これまでの「公開講座」の実績

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|--|------|-------------------|----------------------------|--|
| 1 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化談義「これは英語でどう呼ぶのーモノで始める英語学」 | 2008 | ことばに興味を持っている一般の方々 | 高知市帯屋町 | 英語という言葉の特徴をものごの名前をキーワードとしてみていくと、また違った面白さに出会える。 |
| 2 | 文化 | 高知女子大学大学院公開講座「南海地震時の避難生活を支える災害食について」 | 2011 | 大学院生・一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 3 | 文化 | 高知短期大学 高知学Ⅰ「地震と津波に負けない市民のために」 | 2011 | 高知短期大生・一般の方々 | 高知短期大学 | |
| 4 | 文化 | 本山町高知短期大学公開講座「～地元学で再発見！本山町の「あるもの探し」～」 | 2011 | 高知短期大生・一般の方々 | 本山町プラチナセンター | |
| 5 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化談義「国産人工衛星『だいち』からみた自然災害」 | 2011 | 一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | |
| 6 | 文化 | 高知市民の大学(第72期)総合コース「世界が直面する課題ー環境問題を中心にー」 | 2012 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 7 | 文化 | 地震と津波の基礎知識 | 2011 | 地域住民 | し～さいど鎌倉 | |
| 8 | 文化 | 高知市介良中野団地 中野公民館 成人学級「つぎの南海地震への道筋、つぎの南海地震までしておくこと」 | 2011 | 地域住民 | 高知市介良中野団地 中野公民館 | |
| 9 | 文化 | 高知市春野町 秋山地区町内会 ふれあい講座「南海地震と地域防災について」 | 2011 | 地域住民 | 高知市春野 秋山公民館分館 | |
| 10 | 文化 | 春野高齢者大学 防災講演会「つぎの南海地震と地域防災について」 | 2012 | 地域住民 | 高知市春野 あじさい会館 | |
| 11 | 文化 | 高知市初月地区民生委員児童委員協議会 防災部会「地域の地震防災について」 | 2012 | 高知市初月地区 民生委員児童委員 | 高知市初月 ふれあいセンター | |
| 12 | 文化 | 高知市春野町 秋山地区町内会 ふれあい講座「南海地震の新想定について」 | 2012 | 地域住民 | 高知市春野 秋山公民館分館 | |
| 13 | 文化 | 高知市田辺島中自主防災会 勉強会「田辺島の地震災害について」 | 2013 | 地域住民 | 高知市 田辺島公民館 | |
| 14 | 文化 | 高知市初月地区民生委員児童委員協議会 防災部会「南海トラフ巨大地震と地域防災について」 | 2013 | 高知市初月地区 民生委員児童委員 | 高知市初月 ふれあいセンター | |
| 15 | 文化 | 高知市立城北中学校5校PTA連絡協議会・高知市立小高坂小学校 PTA 合同 防災講演会「南海トラフ巨大地震に備えた地域防災について」 | 2014 | 保護者・地域住民・教職員 | 高知市小高坂小学校 | |
| 16 | 文化 | 高知市春野町 秋山地区町内会 ふれあい講座「南海地震の新想定(高知県版第2弾:H24.12)について」 | 2014 | 地域住民 | 高知市春野 秋山公民館分館 | |
| 17 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化談義「民具とことばのデジタルアーカイブ」 | 2009 | 一般の方々 | アモンティロード | |
| 18 | 文化 | 地域文化デジタルアーカイブ講座(第3回)「民具とことば」 | 2010 | 一般の方々 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | |
| 19 | 文化 | 豊永郷文化講座(第2回)「豊永郷の民具と暮らし」 | 2010 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 20 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化談義「龍馬と土佐ことば」 | 2010 | 一般の方々 | アモンティロード | |
| 21 | 文化 | 文化講演会「土佐弁かるた」で脳トレ！！ | 2011 | いきいきサークルメンバー | 南国市 西石立公民館 | |
| 22 | 文化 | 2011年初夏の市民講座「土佐ことばを探る！！」 | 2011 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 23 | 文化 | リフレッシュ講座「『龍馬・土佐弁かるた』で脳トレ！！」 | 2011 | 高知セカンドライフの会メンバー | 高知県立ふくし交流プラザ | |
| 24 | 文化 | 文化講演会「土佐弁かるたで脳トレ！！」 | 2011 | 生涯老人大学J組 受講生 | 高知市東部健康福祉センター(高齢者いきいきセンター) | |
| 25 | 文化 | 民映研シンポジウム「土佐の山間地からの教え」 | 2011 | 一般の方々 | 自由民権記念館 民権ホール | |
| 26 | 文化 | ふるさと発見講座「土佐弁レッスン」 | 2011 | 祖父母が高知出身の日系4世 | 高知県人権啓発センター | |
| 27 | 文化 | デイサービス事業「龍馬・脳トレ・土佐ことば」 | 2011 | 一般の方々 | 高知市一宮市民会館 | |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|--|--|---|---------------------------|--|
| 28 | 文化 | 文化講演会 「龍馬・脳トレ・土佐弁かるた」 | 2011 | 労金南国支部 友の会のメンバー | グレース浜すし | |
| 29 | 文化 | 安芸シルバー短期大学文化講演会 「土佐の暮らしとことば」 | 2011 | 一般の方々 | 安芸市総合社会 福祉センター | |
| 30 | 文化 | 文化講演会 「龍馬ことばで脳トレ！！」 | 2011 | 一般の方々 | 香美市立中央 公民館 | |
| 31 | 文化 | 文化講演会 「龍馬と土佐弁で脳トレ！！」 | 2011 | 生涯老人大学 A・B組受講生 | 高知県人権啓発 センター | |
| 32 | 文化 | 高齢者教室 「龍馬・ジョン万・かるたで 脳トレ！！」 | 2011 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 33 | 文化 | 心のきずなプロジェクト 「龍馬・ジョン万・土佐弁講座！！」 | 2011 | 東京電力福島第1 原発事故で 避難所生活を 送っている 福島県の中高生 | 高知 プリンスホテル | |
| 34 | 文化 | 土佐山アカデミー講演会 「第一期生プログラムにおける 土佐弁講座」 | 2011 | 土佐山アカデミー 受講生 | 土佐山公民館 | |
| 35 | 文化 | 文化講演会 「土佐弁かるたと脳トレ！！」 | 2011 | 一般の方々 | グレース浜すし | |
| 36 | 文化 | 秋の高齢者教室 「土佐ことばで生き生きソネ！！」 | 2012 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 37 | 文化 | 文化講演会 「土佐ことば見聞録」 | 2012 | 生涯老人大学 C・D組受講生 | 高知県人権啓発 センター | |
| 38 | 文化 | ロータリークラブ講演会 「土佐ことば文化ア・ラ・カルト」 | 2012 | ロータリークラブ 会員 | 三翠園 | |
| 39 | 文化 | 公開講座と学術セミナー 「土佐異界談義」 | 2013 | 大学院生・一般の 方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | |
| 40 | 文化 | 佐川くろがねの会研修会 「クローズアップ土佐ことば」 | 2013 | 佐川くろがねの会 会員 | 佐川町旧浜口邸 | |
| 41 | 文化 | 生き活き大学「土佐ことば再発見!!」 | 2013 | 高知市老人クラブ 連合会会員 | 高知市健康福祉 センター | |
| 42 | 文化 | 文化講座「土佐ことば発見伝!!」 | 2013 | 三和しあわせの会 会員 | 南国市里改田 三和小学校 | |
| 43 | 文化 | 第74期 高知市民の大学 総合 コース 高知県の文化財に学ぶ 「高知県の民俗文化財」 | 2013 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | |
| 44 | 文化 | 土佐日記と源氏物語の講演会 (東原がコーディネーター) | 2003 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | 第一線の研究者を招聘し、『土佐日記』と『源氏物語』の講演会を開催した。清泉女子大学教授長谷川政春「『土佐日記』の放射するもの—紀貫之の解体化—」、跡見学園女子大学教授神野藤昭夫「『源氏物語』と〈紀〉—紫式部の想像力を育んだもの—」、フェリス女学院大学教授三田村雅子「源氏物語を吹く風」。 |
| 45 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「土佐鶴」は無かった —『土佐日記』の虚構性— | 2008 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 高知の銘酒の名前「土佐鶴」は、紀貫之の『土佐日記』が典拠だと言われているが、作中に描かれている「鶴」は、実は「タンチョウ」ではなく、「コウノトリ」である。『古今和歌集』の編者であり、歌人の貫之は、『万葉集』のような写実の方法は取らず、大陸移入の「松鶴図」のイメージによって、観念的な虚構の風景を描いたのであると講義した。 |
| 46 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「光源氏の人物像： 源氏物語の一千年記念」 | 2008 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 『源氏物語』千年紀を記念して、光源氏の性格を臘月夜との交渉を例に講演した。 |
| 47 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「『土佐日記』女もしてみむ とでするなり」の「女」の意味 | 2008 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 『土佐日記』の女性仮託の意味を、男＝漢字(優位項)/女＝仮名(劣位項)と捉え、作者紀貫之の自身も下級官人であることから、ジェンダーとして「女」であり、自身の社会的類比であると考えたことを中心に講演した。 |
| 48 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「『賢木』巻の語りと描写 —六条御息所と光源氏—」 | 2009 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 著名な「野宮の別れ」の場面を中心に、どのように語られているのか、言説を分析して、描写を論じる講演をした。 |
| 49 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「『源氏物語』続篇の主題 —浮舟登場の意味—」 | 2009 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 『源氏物語』の続篇は、正篇と異なりヒロインを貴族に奉仕してきた女房階層、とりわけ「召人」に焦点化することで浮舟という主人公を登場させ、むしろ正篇を批判する視点を獲得したと論じ講じた。 |
| 50 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「『源氏物語』桐壺」巻頭は、 誰の「語り」か—源氏物語の現代 「誤訳」— | 2010 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 方法論として言説分析を導入することによって、誰が語っているのかという、語る主体が明確化できること、それはまた現代語訳の一部に主体を誤った誤訳があることを批判する視座となることを指摘する講演をした。 |
| 51 | 文化 | 文化学部公開講座まちかど文化 談義「『童』の性は男か女か？ —『土佐日記』の文章特性検証—」 | 2011 | 一般の方々 | 帯や勤助 | 散文の特性を検証する。『土佐日記』の一月七日の「童」について、研究史を辿ってみると、「女の童」と理解するのが通説である。しかし、これは、散文の特性、振り返って読み直してみた時、そうした意味付けが可能だということであり、これは散文の特性によるものであることを講じた。 |
| 52 | 文化 | 県民「源氏物語」講読の会 | 2002- | 一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | ウィークデイに年間10回『源氏物語』を講読。2014年7月現在、「澤標」巻を講読中である。 |
| 53 | 文化 | 高知市民の大学 「高知県の文化財に学ぶ」 | 2013 | 一般の方々 | 高知市文化プラザ かるぼーと | 文化財建造物の保存修理を通して、有形無形の文化財から学ぶ。 |
| 54 | 文化 | (愉しむシェイクスピア)シリーズ | 2000、 2002、 2003、 2007、 2008 | 一般の方々 | 大阪府大阪市 朝日カルチャー センター | シェイクスピアの歴史劇を週一回、3か月間で読破した。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|----|---------|--|------|-----------------|---|--|
| 55 | 文化 | 田中貢太郎と中国の怪談 | 2008 | 一般 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 特定領域研究の一環として、市民セミナーを実施。高知ゆかりの文人田中貢太郎と中国の怪談との関わりを話した。 |
| 56 | 文化 | 中国文学研究と高知の文人たち | 2009 | 一般 | 高知県立文学館 | (平成20年度文学カレッジ) 高知ゆかりの大町桂月や田岡嶺雲が、中国文学研究に果たした役割を概説した。 |
| 57 | 文化 | 中国怪奇小説は日本でいかに受け入れられたのかー隠れた立役者田中貢太郎を中心にー | 2009 | 一般 | 中日文化センター (名古屋) | 連続講義「ガイドツアー・中国古典小説への招待」の一回として、高知ゆかりの文人田中貢太郎が中国怪奇小説の紹介に果たした役割を話した。 |
| 58 | 文化 | 海のシルクロードと長江中流域を訪ねてー寧波・福州・泉州・厦門・九江・長沙 | 2012 | 一般 | 中日文化センター (名古屋) | 連続講義「中国歴史紀行」の一回として、海のシルクロードについて、自身が撮影した写真を用いながら解説を行った。 |
| 59 | 文化 | 杜牧「江南春」について | 2012 | 一般 | 五台山竹林寺 | 「吟遊・花さじき」において、杜牧「江南春」を解説。あわせて、箱田秀宗氏と対談を行った。 |
| 60 | 文化 | いつか使いたい英語 | 2010 | 一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 文学作品よりキーフレーズを紹介。構造、使い方について解説。 |
| 61 | 文化 | 図書館の世界、世界の図書館 | 2012 | 一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 西洋における文字、図書、図書館の歴史。 |
| 62 | 文化 | 音楽と文学の微妙な関係 | 2009 | 一般の方々 | リベルテ(高知市) | 二つの芸術分野の接点について |
| 63 | 文化 | 都市化とペットと犯罪小説 | 2008 | 一般の方々 | 街の駅(高知市) | エドガー・アラン・ポー「黒猫」について |
| 64 | 文化 | 「自由民権運動におけるアジア主義ー植木枝盛の『東洋』はどこだったのか」 | 2012 | 一般の方々 | 高知新聞放送会館 | アラブの春といわれる、アラブ諸国で起き「自由」を掲げた革命運動との関連を伏線に、植木枝盛の思想にみられる、アジア地域における「自由」の可能性について考察。 |
| 65 | 文化 | 世界史の中の植木枝盛ー合衆国構想とその評価 | 2012 | 高知市近代史研究会会員 | 高知市立自由民権記念館 | 植木枝盛が多くの国の憲法制度を参考にしながら自らの憲法構想を練ったのだが、その特徴の一つとして「州」と言う存在の大きさがあげられる、という観点から考察する。 |
| 66 | 文化 | 一人のベルギー人がみた高知 | 2012 | 高知ベンクラブ会員 | 高知会館 | ベルギーという国の歴史と文化を、日本の近代史また高知という地域のそれぞれの特徴と比較、関連する講演。 |
| 67 | 文化 | 日本文化について語る「吟遊・花さじき」箱田秀宗先生主催 | 2012 | 50歳以上が多い | 五台山竹林寺 | 詩吟をはじめ、日本の伝統芸能がこれからも大事にされるための知識、工夫などについて。 |
| 68 | 文化 | 日本学レクチャーシリーズ「Micronesians' View on "Japan": The case of Palau」 | 2012 | 大学生・一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | パラオでの調査経験から、日本人のミクロネシアに対するまなざしと、ミクロネシア人の日本に対するまなざしを検討。 |
| 69 | 文化 | 日本移民学会ワークショップ「高知県から日本の移民を考える」にて講演:「ミクロネシア(旧南洋群島)に渡った高知県の人びとーチューク諸島のモリ・ファミリー」 | 2011 | 研究者・一般の方々 | 高知県、佐川町立桜座 | 高知からミクロネシア地域への移民に関して、モリ・ファミリーの事例から検討。 |
| 70 | 文化 | 永生の果実から懐旧の花へー日本文学と橋の特性を考える | 2013 | 高齢者講座 | 高知市文化プラザ かるぼーと | 万葉集以降、古典文学における「たちばな」の意義や時代的変化について。 |
| 71 | 文化 | 日本学Perspectives on Classical Japanese Literature | 2011 | 一般の方々 | 高知県立大学 永国寺キャンパス | 高知県立大学東民開放授業。「王佐日記」『枕草子』『方丈記』『徒然草』を部分的に英語で読んで、その美意識、特徴、世界観について考える。日本古典文学の代表的な作品ではあるが、何が「日本的」なのか、英語でも表現してみよう。 |
| 72 | 文化 | 上代文学における羽衣型の天人女房の意味 | 2011 | 一般の方々 | 音楽茶房リベルテ | 日本古代文学における天人女房について。 |
| 73 | 看護 | からだの声をきく | 2002 | 市民講座 | 高知市文化プラザ かるぼーと | 自分自身の健康に目を向け、自分のからだを知る方法について解説した。 |
| 74 | 看護 | 保健補導員に期待すること | 2009 | 保健補導員 | 長野県御代田町 | 補導員自信と周囲の住民の健康づくりについて |
| 75 | 看護 | 21世紀職業財団「保育サポーター養成講座」の「子どもの安全と病気の世話」を担当 | 2008 | 保育サポーターとなる一般の方々 | 高知市 | 保育サポーターとなる方々に対して、子どもの安全を守ること、子どもの最善の利益を保障することの意味を説明し、病気の子どもも含めた子どもを看るために必要となる根拠やアセスメント力を高めることができるように講義を展開した。 |
| 76 | 看護 | 平成22年度 福岡大学市民カレッジ「転ばぬ先の骨」 | 2010 | 40歳以上の地域住民 | 福岡県福岡市 福岡大学 | 地域住民を対象に骨粗鬆症予防のために、体組成計・骨密度測定・フードモデルを用いた体験講座を行った。 |
| 77 | 看護 | 第8回大分大学地域連携福祉フォーラム「高齢者の介護予防と年金」 | 2005 | 40歳以上の地域住民 | 大分県大分市 大分市コンパルホール | 股関節の運動に関与する骨格筋組織の加齢的形態変化について、講演を行った。 |
| 78 | 看護 | 医療統計全般に関する講座 | | | | |
| 79 | 看護 | シミュレーション法を用いた教育に関する講座 | | | | |
| 80 | 看護 | 認知症高齢者のターミナルケア | 2013 | 認知症の人と家族の会 会員 | 高知市 | 今後高齢者の4人に1人が認知症になる時代と言われ、後期高齢者人口がピークを迎える2025年には認知症高齢者の看取りも課題となることが予測される。そのため実例を踏まえて、ターミナル期の特徴、ケア、家族支援について講演を行った。 |
| 81 | 社福 | イギリスのコミュニティケア改革(高齢者介護) | 2010 | 大学院生、教員 | 吉備国際大学 (岡山県高梁市) | イギリスにおけるコミュニティケア改革の動向と特徴、日本の介護政策との比較 |
| 82 | 社福 | イギリス福祉領域における行政評価ー展開と課題 | 2010 | 研究者、大学教員等 | 京都大学東京 オフィス(東京都港区)、関東学院大学(横浜市)、日本福祉大学名古屋キャンパス(名古屋) | イギリス福祉サービスにおける行政評価の動向と日本に対する示唆 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|--|-----------|--------------------------------|---|--|
| 83 | 社福 | New Public Managementを超えて ーイギリス医療・福祉サービスにおける ポストNPM:公共・利用者参加 | 2008 | 大学教員、行政職員、医療 ソーシャルワーカー等 | 関東学院大学 (横浜市)、 イギリス医療福祉研究会 (名古屋市) | イギリスNHS(医療)における多様な患者参加の手法とその底流にある当事者参加や当事者による評価の意義および課題について |
| 84 | 社福 | 「介護のこれまで、そしてこれから」 | 2014 | 高校生 | 高知県立大学 池キャンパス | 介護の歴史と現状に至った経緯、今後考えられることについて |
| 85 | 社福 | 介護する・介護されるとは | 2009 | 高校生 | 高知市 | 要介護者の講義及び演習を通して生活(主に移動)のしづらさを体験し、介護を受ける立場、援助する立場について話した |
| 86 | 社福 | 高齢者虐待防止 | 2011 | 特別養護老人ホーム職員 (多職種) | 高知市 | 高齢者虐待の現状と虐待防止・解決に向けた取り組み等について話した |
| 87 | 社福 | 認知症の人を支えるために | 2013 | 高校生 | 高知市 | 認知症の症状について説明し、認知症になると生活にどのような支障が起きやすいかを考え、必要な支援(施策や地域の中でできることなど)について話した |
| 88 | 社福 | 高齢者の権利擁護 | 2013 | 福祉職 | 高知市 | 高齢化の進展、高齢者虐待の現状と虐待が起こる背景などについて話した。また、防止のための取り組みについても紹介した |
| 89 | 社福 | 平成19年度高知県保健福祉フォーラム ワークショップ 「地域生活のエコシステム理解と関係を学ぶ」 | 2007 | 高知県民および保健医療福祉専門職 | 高知市 | 地域での見守り、つながりの基盤となる「地域生活」のとらえ方を参加者と演習形式で具体的に検討した。 |
| 90 | 社福 | 津野町地域活性化計画策定業務研修 「廃校後の新たな地域活性化計画の策定」(計5回) | 2012 | 廃校後の活用を検討している地域住民 | 津野町 | 廃校後の新たな地域活性化について、廃校後の活用を検討している地域住民とともに、ワークショップ形式で勉強会を行った。 |
| 91 | 社福 | 津野町教育委員会・高齢者教室講師 「安心した暮らしをつくる-あなたと隣近所ができる「高齢者虐待対策」- | 2013 | 津野町教育委員会・高齢者教室参加者 | 津野町 | 安心した暮らしをつくるために、不可欠な地域の支え合いと高齢者虐待対策について演習形式で勉強会を行った。 |
| 92 | 社福 | 支え合いのまちづくり | 2013 | 一般住民 (特定の自治会) | 高知市 | まちづくりにとっての支え合いの大切さについて説明し、住民みんなで取り組むことの重要性を話した。 |
| 93 | 社福 | 社会的孤立と地域の見守り | 2013 | 一般住民 | 本山町 | 社会的孤立の現状と課題について説明し、その中で地域の見守りの大切さについて説明した。 |
| 94 | 社福 | 福祉心理 「関係作りを重視した傾聴技法」 | 2011 | 一般、ボランティア登録者 | 横浜市港北区 | マイクロカウンセリングやコーチングのスキルを使った傾聴法 |
| 95 | 社福 | 介護マネジメントと職員のモチベーション | 2013 | 福祉関係者 | 高知市 | 介護サービス事業所の職員向けに、働く人々のニーズ、モチベーションの持論、動機づけ要因、およびモチベーション向上施策等について、スライドを用いて具体例を紹介しながら解説した。 |
| 96 | 社福 | NPO法人宅老所はな「わくわくクラブ」主催 「団塊の世代のための生きがい探し講座2010」 「現代医療と死に方」 | 2010 | 中高年 | 大津市 | 終末期医療や処置に関する情報等 |
| 97 | 社福 | ソーシャルワーカーとして働くこと ～生活を支える専門職～ | 2014 | 高校生 | 高知県立大学 池キャンパス | 社会福祉の専門職であるソーシャルワーカーが実践する場や領域を解説するとともに、ソーシャルワークの特性を「生活」「支援」「過程」というキーワードから考える。また、講義と演習をとおして、ソーシャルワーカーに求められる知識やスキルを体験的に学ぶ。 |
| 98 | 社福 | 介護福祉士の魅力とやりがい | 2011 | 高校生 | 高知県立大学 池キャンパス | (高校生のための公開講座) 介護の仕事のイメージは悪いが、実際はやりがいがあり魅力のある仕事 |
| 99 | 社福 | ケアマネジメント技術教育の在り方を考える | 2012 | 福祉関係者 | 日本福祉大学名古屋キャンパス | ケアマネジメント従事者の技術教育についてどのように対応していくべきか、ケアマネジメント技術の自己評価票である「ケアマネジメント技術作業指標」を取り上げながら検討する |
| 100 | 健栄 | いつまでも丈夫な骨であるために ー骨塩量測定ー | 2011 | 30～50代 | 岡山県・総社市 | 骨塩量の測定、栄養指導、レシピ紹介、試食 |
| 101 | 健栄 | OPUフォーラム 健康測定コーナー | 2013 | 20～60代 | 岡山県・総社市 | 骨塩量の測定、栄養指導 |
| 102 | 健栄 | 地域食材を利用した食品の調理・加工 | 2012-2014 | 食品関連企業従事者、一般市民 | 南国市 | 食品の調理・加工や調理操作で生じる食品の特性について概説 |
| 103 | 健栄 | 健康長寿出前講座 | 2010 | いの町町民町関係者 高齢者中心 | いの町吾北中央公民館 | 認知症予防につなげる咀嚼力をあげる食事・咀嚼力の測定 |
| 104 | 健栄 | 健康長寿出前講座 | 2010 | 土佐市市民土佐市関係者 高齢者中心 | 土佐市 グランディール | 認知症予防につなげる咀嚼力をあげる食事・咀嚼力の測定 |
| 105 | 健栄 | 「元気がでる災害食」 高知女子大学大学院公開講座 | 2011 | 高知県民 自衛隊関係者 他 県行政管理栄養士(香川県) | 高知市 かるぼーと | カセットコンロを使用し、インスタント食品の栄養価を高めた食事の紹介等 |
| 106 | 健栄 | 認知症予防の食事について | 2010 | 土佐市の住民 | グランディール 土佐 (高知県高知市) | 硬い食品をよく咀嚼して食べる習慣をつけることで、脳を活性化し、認知機能の低下防止につながることから、「よく噛む食事」を紹介 |
| 107 | 健栄 | 栄養バランスの良い食生活について | 2010 | 三里地区の住民 | 高知県立大学 池キャンパス | バランスカードを使用し、健康維持のための適切な栄養管理としてカロリー計算や栄養バランスの良い食事を指導 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|--|------|------------------------------|--------------------|--|
| 108 | 健康 | 認知症予防の食事について | 2011 | 須崎市の住民 | 須崎市民館 | 「ベンフィールドの脳機能地図」によれば、歯・舌など口のあたりの機能に対応する部分が、大脳皮質の面積の4割を占めていることから、頭脳の働きを維持するためには咀嚼力を鍛えることが認知症予防につながることを説明し、よく噛む食事を紹介 |
| 109 | 健康 | きたるべき南海地震に備え 今すべき食支援とは？ | 2012 | 一般の方々 | 高知市 かるぼーと | 東日本大震災を機に見直された全国自治体の食糧備蓄体制の現状について解説し、きたるべき南海地震に備え今すべき食支援について説明 |
| 110 | 健康 | おいしい災害食のススメ～東日本 大震災の経験に学んで～ | 2013 | 一般の方々 | 高知県立ふくし 交流プラザ | 災害発生後の避難所における食生活の現状を石巻市の食支援の活動報告を通して、南海大地震に備えどのような食事を備蓄しておくべきかを指導した。また、乳幼児や高齢者など災害時要援護者の食支援について臨床栄養の面からサポートする方法を説明した |
| 111 | 健康 | 非常食の話 | 2013 | 保護者、教員、 防災関係者 | 高知市立布師田 小学校 | きたるべき南海地震に備え今すべき食支援について |
| 112 | 健康 | 非常食の話 | 2014 | 小学生および 保護者 | 五台山小学校 | きたるべき南海地震に備え今すべき食支援について |
| 113 | 健康 | 「おいしい災害食のススメ ～東日本大震災の経験に学んで～」 | 2013 | 一般住民、社会 福祉施設スタッフ | 高知市 | 東日本大震災へのボランティア活動の紹介を行った。また簡単に作れる災害食の紹介等を行った。 |
| 114 | 健康 | 高知医療センター・高知県立大学 包括的連携「糖尿病料理教室」 | 2013 | 糖尿病患者および そのご家族 | 高知市 | 高知医療センター栄養局のスタッフと一緒に、糖尿病患者に対する糖尿病治療の紹介および調理実習を行った。 |
| 115 | 健康 | 第26回日本消化器学会四国支部 市民公開講座 『知って得する消化器の病気』 | 2004 | 消化器疾患患者と その家族および 一般市民 | 高知市 | 消化器疾患およびその術後の食事療法について具体例を交え講演した。 |
| 116 | 健康 | 高知医療センター糖尿病週間公開 勉強会 『高知医療センターでの糖尿病 治療について～栄養編～』 | 2006 | 糖尿病患者および 一般市民 | 高知市 | 糖尿病の食事療法の基本と、外来および入院での治療中の栄養指導の流れや内容について紹介した。 |
| 117 | 健康 | 高知県世界糖尿病デー市民公開 講座 『糖尿病の食事療法—おいしく楽しく ラクテンに—』 | 2011 | 糖尿病患者とその 家族および一般 市民 | 高知市 | 糖尿病の食事療法の基本と実践しやすい工夫を講演した。 |
| 118 | 地教研 | 「地球環境を考える—研究の現状と 課題—」 | 1999 | 社会人一般 | 高知女子大学 永国寺キャンパス | 高知女子大学における研究を事例を含めて地球環境研究の状況を紹介し、地球環境の現状と地球環境問題への取り組みに対する理解を深める。 |
| 119 | 地教研 | 高知女子大学大学院 公開講座 「深層水と海洋深層水」 | 2002 | 社会人一般 | 幡多高等看護 学院(宿毛市) | 深層水と海洋深層水の違い、海洋深層水の特性と特長を正しく理解することを目的とする。 |
| 120 | 地教研 | 高知市民の大学総合コース 「微量元素でわかる海洋循環 —「室戸海洋深層水」は深層水か—」 | 2002 | 社会人一般 | 高知市中央 公民館 | 微量元素をトレーサーとして用いて明らかとなった海洋大循環の様子を知り、室戸海洋深層水は大循環とは独立した局所湧昇流であることを理解する。 |
| 121 | 地教研 | 高知市民の大学自然科学コース 「環境保護への取り組み(海洋の 環境化学)」 | 1995 | 社会人一般 | 高知市中央 公民館 | 海洋の化学成分の精密観測を通じて明らかとなった海洋における物質循環の様子を解説し、地球温暖化にかかわる炭素循環に海洋が深く関わっていることを解説する。 |
| 122 | 地教研 | 北海道の住宅の「これまで」と「いま」 そして「これから」 | 1994 | 一般の方々 | 北海道石狩市 | 一般市民向けに、北海道の住宅における住生活の特徴、それらにふさわしい住空間のあり方、などについて、北海道の住宅の歴史的な経緯と現状と今後のあるべき姿などをもとに、わかりやすく解説した。 |
| 123 | 地教研 | 「寒地住宅に必要な生活空間」 | 1988 | 一般の方々 | 北海道小樽市 | 一般市民向けに、北国での生活の特徴と、それに応じて必要となる生活空間について、当時の最新研究成果にもとづく知見をわかりやすく解説し、スライドを用いて具体例を紹介した。 |
| 124 | 地教研 | マイホーム講座「北国の生活から みた平面計画」 | 1992 | 住まいづくりを 考えている 一般市民 | 北海道札幌市 | 住まいづくりを考えている一般市民向けに、北国での生活の特徴と、それに応じて必要となる生活空間について、スライドを用いて具体例を紹介しながら解説した。 |
| 125 | 地教研 | 体育・スポーツ史 | 2003 | 社会人 | 高知市 | 高知県の体育・スポーツの歴史について |
| 126 | 地教研 | スポーツは夢 | 2003 | 社会人 | 高知市 | 高知県のスポーツ史を彩った名選手たちの活躍の歴史と教訓 |
| 127 | 地教研 | まちづくりとスポーツ | 2005 | 社会人 | 高知市 | まちづくりにスポーツを活用するための考え方や実践事例の紹介 |
| 128 | 地教研 | 総合型地域スポーツクラブ | 2005 | 社会人 | 高知市 | 文部科学省が推奨する地域スポーツのクラブの理念と概要の紹介 |
| 129 | 地教研 | 高知市の地域スポーツの新たな 展開 | 2005 | 社会人 | 高知市 | 高知市のスポーツ施策の理念と実践例の紹介、今後の展望について |
| 130 | 地教研 | まちづくりとスポーツクラブ | 2004 | 社会人 | いの町 | まちづくりにスポーツを活用するための考え方や実践事例の紹介 |
| 131 | 地教研 | 旭東体育会が総合型地域スポーツ クラブになる！？ | 2004 | 高知市旭東地区 在住の市民 | 旭東小学校 | 文部科学省が推奨する地域スポーツのクラブの理念と概要の紹介 |
| 132 | 地教研 | 総合型地域スポーツクラブの幻想と 実像 | 2004 | 池川町民 | 池川町 (現仁淀川町) | 文部科学省が推奨する地域スポーツのクラブの理念と概要の紹介 |
| 133 | 地教研 | スポーツは生きがい | 2004 | 60代以上の高知 市民 | 高知市 | 生きがいとしてのスポーツの楽しみ方について |
| 134 | 地教研 | 地域で遊ぼう！ | 2004 | 本山町民 | 本山町 | 自然環境を生かした地域スポーツのススメ |
| 135 | 地教研 | 子どもの体育・運動は身体に いいの？ | 2004 | 20～40歳代の女性 | 南国市 | 子どもの運動離れが進み、子どもの心と体に影を落とし始めている。しかし、子どものスポーツは親が適切に選んであげないと、心や体に障害を起こすことがある。適切な、子どもの運動やスポーツの選び方について。 |
| 136 | 地教研 | 発見！高知のすごいヒト・コト・モノ | 2008 | 高知市民 | 高知市 | 高知県の活性化に向けて、高知のすばらしいヒト・コト・モノを紹介した。 |
| 137 | 地教研 | 子どもの体力向上をどう図っていくか | 2009 | 香美市内の小中 学校の校長及び 教職員、市民 | 香美市 | 高知県の子どもたちの体力や運動能力の実情を紹介し、日常生活の中でこれらを改善する方法について紹介した。 |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 実施年度 | 対象者 | 実施場所 | 内容 |
|-----|---------|-----------------------------------|------|--|------|--|
| 138 | 地教研 | ゆず農家の実情など | 2009 | 地域求職者 | 香美市 | 1ターンで香美市物部町に移住し、ゆず農家となった2名の暮らしぶりを紹介し、就農への志向を高めた。 |
| 139 | 地教研 | 地域スポーツを支える「新しい公共」 —第68期高知市民の大学 | 2010 | 高知市民 | 高知市 | まちづくりにつながる地域スポーツを、「新しい公共」と呼ばれる市民たちが担うようになりつつある現状と、今後の展望について。 |
| 140 | 地教研 | スポーツボランティア | 2013 | 全国から集まった スポーツボラン ティアに興味の ある人々 | 高知市 | 全国ボランティアフェスティバルの分科会として実施した。スポーツボランティアが「支えるスポーツ」として定着している現状と、今後の展開について。 |
| 141 | 地教研 | 高知市の新しいスポーツ振興 方策の考え方 | 2014 | 高知市民 | 高知市 | 高知市が策定したスポーツ振興計画の考え方と概要の説明 |
| 142 | 地教研 | 「臨床心理士とともに子育てに ついて考える」 | 2007 | 一般市民 | 東京都 | 保育者の発達障害児への関わり方について |

6. 今後可能な「公開講座」

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 対象者 | 内容 |
|----|---------|---------------------------------------|-----------------------|---|
| 1 | 文化 | 英語を読む | 英語の読解に興味を持っている一般の方々 | ジャンルにはこだわらず、文章そのものを味わい楽しむことを目的として読む。 |
| 2 | 文化 | 自然災害、地域防災、地球科学 | 地域住民・一般の方々 | 南海地震、気象災害、地域防災、地球科学全般についての解説・授業。 |
| 3 | 文化 | 人工衛星による地球観測 | 地域住民・一般の方々 | 人工衛星による地球観測についての解説。 |
| 4 | 文化 | ドラマ・漫画に見る土佐ことば | 一般の方々 | ドラマと漫画に見る土佐ことばについて考える。 |
| 5 | 文化 | 気づかない土佐ことば | 一般の方々 | 言われてみて初めて方言と気づく土佐ことばについて再発見する。 |
| 6 | 文化 | 民具と土佐ことば | 一般の方々 | 暮らしのことばであるコトと民具というモノと伝えるヒトの関係について見る。 |
| 7 | 文化 | 古典文学『源氏物語』『土左日記』 | 一般の方々 | 作品の講読や講演・講義。 |
| 8 | 文化 | 漢詩漢文全般 | 一般の方々 | 漢詩や漢文についての講義や講読 |
| 9 | 文化 | その他、実績に準じる | 一般の方々 | 漢詩漢文のみならず、広く中国及び東アジア文化全般についての講演。 |
| 10 | 文化 | 軽さと重さの文化史 | 一般の方々 | 西洋(および少しだけ東洋)における「軽さ」と「重さ」のイメージについて。 |
| 11 | 文化 | いつか使いたい英語 | 一般の方々 | 文学作品よりキーフレーズを紹介。構造、使い方について解説。 |
| 12 | 文化 | 文字、図書、図書館の歴史 | 一般の方々 | 西洋(および少しだけ東洋)における文字、図書、図書館の歴史。 |
| 13 | 文化 | ミクロネシアの歴史と文化 | 一般の方々 | ミクロネシア地域の歴史、文化について文化人類学的観点から概説。日本の近隣だがあまりよく知られていない地域に関する知識教養を養う。 |
| 14 | 文化 | 日本文学を英語で読む | | 和歌、神話、物語、小説など。 |
| 15 | 文化 | 日本上代文学 | | 『万葉集』『古事記』『風土記』など。 |
| 16 | 看護 | 健康づくりについて | 中高年、健康づくり活動実践者 | 地域における健康づくりに関すること。 |
| 17 | 看護 | 量的研究に関する講座 | 看護師やその他の医療職 | 対象のニーズにあわせて、基礎の基礎から研究での使用法や解釈方法までを、事例を使った演習形式で実施します。 |
| 18 | 看護 | シミュレーション法を使った教育法 | 病院の教育担当者 | シミュレータが無くてでもできるシミュレーション法を用いた現任教育法について。 |
| 19 | 看護 | がん治療後のリンパ浮腫のケア | がん患者で、リンパ浮腫発症のリスクがある方 | リンパ浮腫の予防や発症後のケアについて |
| 20 | 看護 | 在宅療養における訪問看護の役割 | 医療・介護専門職 一般の方々 | 在宅療養における訪問看護の役割、機能、実際について講演する |
| 21 | 社福 | 福祉国家イギリスの医療NHSの課題と取り組み | イギリスの医療制度に関心のある方 | イギリスNHSの医療制度の動向と課題、日本への示唆 |
| 22 | 社福 | 認知症高齢者の現状と課題 | 高校生、一般市民、福祉職 | 症状による介護の方法など |
| 23 | 社福 | 介護家族への支援 | 介護家族、福祉職、一般市民 | 介護技術など |
| 24 | 社福 | 高齢者の権利擁護 | 高校生、一般市民、福祉職 | 高齢者虐待の現状と生活支援の取り組みなど |
| 25 | 社福 | 安心した暮らしをつくるための地域のつながりや支え合い・ネットワークについて | 地域で支え合いに関心をもつ住民など | 安心した暮らしをつくるための地域のつながりや支え合い・ネットワークについて、講義または演習形式で研修を行う。 |
| 26 | 社福 | 生活をとりまく社会福祉の制度やサービスと支援について | 地域で社会福祉に関心をもつ住民など | 生活に関連する社会福祉の制度やサービスについて、またその支援方法について講義または演習形式で研修を行う。 |
| 27 | 社福 | 生きがいづくりに関する支援について | 地域で生きがいづくりに関心をもつ住民など | 生きがいづくりに関して講義または演習形式で研修を行う。 |
| 28 | 社福 | 相談への対応方法を考えるーソーシャルワークを参考にー | 一般市民 | 社会福祉およびソーシャルワークについての基礎的な理解をふまえ、日常生活における相談への対応方法や傾聴について、講義・演習をとおして考える。 |
| 29 | 社福 | 地域福祉について | 一般市民 | 地域福祉をめぐる考え方や取り組み方法について |
| 30 | 社福 | 福祉心理「関係作りを重視した傾聴技法」 | ボランティアや成人一般 | マイクロカウンセリングやコーチングのスキルを使った傾聴法を演習などで学ぶ |
| 31 | 社福 | 「医療機関との付き合い方」 | 一般 | 複雑化し、機能分化した医療・介護制度を概観し、どのように自分の療養を考えたらいいかについて考える。 |
| 32 | 社福 | 介護職のリテンションマネジメント | 福祉関係者 | 介護職の離職率の現状、離職の理由、人材が定着し育つ職場の特徴、および定着策の具体例などを、スライドを用いてわかりやすく解説する。 |
| 33 | 社福 | 認知症の理解と対応 | 一般市民 | 認知症の症状とそれらに対する対応について |
| 34 | 社福 | 人を支えるコミュニケーション力 | 一般市民 | コミュニケーションの特徴や内容の解説を交えながら、対人支援に生かせるコミュニケーションについて体験をとおして学ぶ。 |
| 35 | 社福 | 医療福祉 年齢は問いません。 | | |

| 番号 | 学部・センター | テーマ | 対象者 | 内容 |
|----|---------|--------------------------|---------------------------------|--|
| 36 | 社福 | 介護職の魅力とやりがい | 介護に興味がある者、介護に従事しようとする者 | 介護のイメージアップ 介護の仕事は3Kと言われますが、本当にそうなのか。実際の仕事の内容、魅力ややりがいについて |
| 37 | 健栄 | 低栄養を防ごう 食べやすいに肉料理で満足度アップ | 高齢者 | 低栄養予防についての講義・酵素、または調理技術による軟らかく食べ易い肉料理の紹介と実習等 |
| 38 | 健栄 | 今から準備、災害食のススメ | 一般家庭 | 普段から家庭の中で災害について話し合う重要性について講義。簡単な災害食が作れるコツを学ぶ。 |
| 39 | 健栄 | きたるべき南海地震に備え 今すべき食支援について | どなたでもOK | |
| 40 | 健栄 | 食と栄養に関すること | どなたでもOK | |
| 41 | 健栄 | 糖尿病の食事療法 | 糖尿病患者とその家族 | 糖尿病の食事療法の基本と具体的な方法論の説明。 |
| 42 | 地教研 | 地球環境における海洋の役割 | 特に限定しない | 海洋を中心としたエネルギー移動と物質循環を概説する。 |
| 43 | 地教研 | 高知の清流 | 特に限定しない | 高知県の代表的河川の水質、水質を守る様々な取り組みを紹介しながら、これからできることを考える。 |
| 44 | 地教研 | はかる～科学計測と単位 | 特に限定しない | 日常生活の中で使われているいろいろな量や単位を題材として、これらの背景にある自然現象と自然法則を解説する。 |
| 45 | 地教研 | ニセ科学と科学リテラシー | 特に限定しない | 一見科学的に見えながらそうでないものの事例を挙げながら、科学的とはどういうことなのかを考える。 |
| 46 | 地教研 | 高知の水切瓦と職人技 | 一般の方々 | 高知の水切瓦の由来、その特徴、それを支える独自の材料・技術、それらの現状と課題、などを、写真・図版などでわかりやすく解説する。 |
| 47 | 地教研 | 2020オリンピック東京大会がやってくる！ | 子どもから高齢者まで | 古代オリンピックと近代オリンピックの歴史から、「オリンピック運動」という視点から、オリンピックの理想が平和と友愛であり、それは教育運動であることを、それぞれの学年の子どもたちに応じて講義する。 |
| 48 | 地教研 | 「ことばを育てる・ことばが育つ」 | 子育てに関心がある方、とくに、子どものことばの発達が気になる方 | 言語発達の過程と子どもへの関わり方について |

V. 資料編

2014年7月4日
地域教育研究センター
生涯学習部会
部会長 宇野浩三
調査担当 宇野浩三

問合せ先：unoh@cc.u-kochi.ac.jp(宇野浩三)
回答送付先：kouno@cc.u-kochi.ac.jp(河野淑子)

生涯学習関連実績等調査へのご協力をお願い

この調査は、**生涯学習部会**がおこない、その調査結果を**広報委員会等**と共有し、**大学HP等**で公開するとともに、今後の高知県立大学における**生涯学習関連の各種事業に役立てる**ためにおこなうものです。高知県立大学の専任教員等はこれまで各種の生涯学習関連事業に貢献してきていると思われませんが、それらがかならずしもひろく認知されているとはいえない状況にあるのではないかと考え、実績等をきちんと整理して今後に役立てようとするものです。

公表にあたっては、生涯学習部会等で議論し、適切な公表のしかたになるよう配慮いたしますので、この調査の調査項目については、可能なかぎりご回答ください。ただし不明な項目などについては、未記入でもかまいません。すべての項目が記載できなくてもかまいませんので、実績等については、なるべくもれなく記載してください。

おいそがしいところ恐縮ですが、この調査票は、**2014年7月25日(金)**までに、生涯学習事務局の河野淑子(kouno@cc.u-kochi.ac.jp)宛に、添付ファイルでお送りください。

1. 調査は、(1)小学校・中学校・高等学校の**児童・生徒を対象**とする**出前授業・講義**(実施場所は問いません)、(2)**リカレント講座**、(3)**公開講座**、の3つの種別で、(a)**これまでの実績**と、(b)**今後可能な内容**について、です。
2. 各実績ごとの細項目のうち、不明な項目は未記入でかまいませんが、**テーマ・タイトル等**についてはかならず記載してください。
3. 記載する**これまでの実績の年度**については**制限しません**。さかのぼってすべての実績を記載していただいてさしつかえありません。
4. **今後可能な内容**については、**テーマ・タイトル等**と、およその**対象年齢層**、およその**内容**、について記載してください。記載例を別途添付しています。
5. 改頁位置などは気にせず、ベタうちしてください。

1. 調査対象

この調査には、高知県立大学の**すべての専任教員**の方がご回答ください。

2. 調査の目的

生涯学習関連実績等にかんして、(a)これまでの実績と、(b)今後可能な内容について、(1)整理・公表し、(2)今後の生涯学習関連事業等に役立てること、を目的とします。

3. 調査の内容

本調査の内容は、添付調査票のとおりです。

4. 調査データの取扱い

本調査によって提供されたデータは、整理のうえ、電子メールによる学内教職員への配信および大学ホームページへの掲載を予定しています。

5. 調査への回答締切および提出方法

調査への回答の締切は2014年7月25日(金)です。締切日までに、地域教育研究センター事務局・河野淑子宛に、電子メール(kouno@cc.u-kochi.ac.jp)の添付ファイルで、提出してください。

この調査についてのお問合せは、宇野宛(unoh@cc.u-kochi.ac.jp)に、電子メールでおこなってください。

6. 回答の作成要領

記載例を参照してください。

以上

生涯学習関連実績等調査[記載例]

2014年7月4日

地域教育研究センター生涯学習部会

この調査は、生涯学習部会がおこない、その調査結果を広報委員会等と共有し、大学HP等で公開するとともに、今後の高知県立大学における生涯学習関連の各種事業に役立てるためにおこなうものです。高知県立大学の専任教員等はこれまで各種の生涯学習関連事業に貢献してきていると思われませんが、それらがかならずしもひろく認知されているとはいえない状況にあるのではないかと考え、実績等をきちんと整理して今後役に立てようとするものです。

公表にあたっては、生涯学習部会等で議論し、適切な公表のしかたになるよう配慮いたしますので、以下の調査項目については、可能なかぎりご回答ください。ただし不明な項目などについては、未記入でもかまいません。すべての項目が記載できなくてもかまいませんので、実績等については、なるべくもれなく記載してください。

おいそがしいところ恐縮ですが、この調査票は、2014年7月25日(金)までに、生涯学習事務局の河野(kouno@cc.u-kochi.ac.jp)宛に、添付ファイルでお送りください。

1. 調査は、(1)小学校・中学校・高等学校の児童・生徒を対象とする出前授業・講義(実施場所は問いません)、(2)リカレント講座、(3)公開講座、の3つの種別で、(a)これまでの実績と、(b)今後可能な内容について、です。

2. 各実績ごとの細項目のうち、不明な項目は未記入でもかまいませんが、テーマ・タイトル等についてはかならず記載してください。

3. 記載するこれまでの実績の年度については制限しません。さかのぼってすべての実績を記載していただいてさしつかえありません。

4. 今後可能な内容については、テーマ・タイトル等と、およその対象年齢層、およその内容、について記載してください。記載例を別途添付しています。

5. 改頁位置などは気にせず、ベタうちしてください。

1. 基本情報

(a)回答者名：宇野浩三

(b)所属学部・センター名：地域教育研究センター

2. 小学校・中学校・高等学校などにおける出前授業・講義などの実績と今後可能な内容

2-1)小学校・中学校・高等学校などで、児童・生徒を対象としておこなった出前授業・講義などの実績について記載してください(実施場所は問いません)。

(1)

(a)授業・講義等のテーマ・タイトル：生き方を豊にする住居と住環境

(b)実施年度：1996

(c)対象学校種・学年：高等学校・全学年

(d)実施学校名(所在都道府県・市町村)：北海道札幌市

(e)およその内容：住宅・住環境の役割、それらの人間の生活・健康・発達などへの影響、などについて、具体的な調査データなどを用いてわかりやすく解説し、豊かな暮らしのための住宅・住環境のあり方等について話した。

(2)

-
- (a) 授業・講義等のテーマ・タイトル：住宅の地方性を考える－高知の気候風土にふさわしい住まい－
(b) 実施年度：2003
(c) 対象学校種・学年：高等学校・2年生
(d) 実施学校名(所在都道府県・市町村)：高知県高知市
(e) およその内容：日本各地の住まいの特徴、その気候風土・生活文化・地場産業などとの関連性、などについて、スライドをもちいてわかりやすく解説し、高知県の気候風土にふさわしい住まいのあり方等について話した。
-

(3)

-
- (a) 授業・講義等のテーマ・タイトル：ユニバーサルデザインについて学ぼう
(b) 実施年度：2003
(c) 対象学校種・学年：小学校・5～6年生
(d) 実施学校名(所在都道府県・市町村)：高知県高知市
(e) およその内容：総合的な学習の時間で実施された「森林公園のバリアフリーを考える」という授業のなかで、標記のテーマでの授業をおこなった。ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、子どもたちにも身近な例などをあげて、その基本となる考えかたわかりやすく解説し、事例の紹介などを行った。
-

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

2-2) 小学校・中学校・高等学校などで、児童・生徒を対象としておこなう出前授業・講義などについて、**今後可能なもの**を記載してください(実施場所は問いません)。

(1)

-
- (a) 授業・講義等のテーマ・タイトル：日本各地の住まいと高知の住まい
(b) 対象学校種・学年：小学校・中学校・高等学校の全学年(年齢層に応じた内容にできる)
(c) およその内容：日本各地の住まいの特徴、その気候風土・生活文化・地場産業などとの関連性、高知県の気候風土にふさわしい住まいのあり方、などについて学んだり考えたりする授業を、児童・生徒参加型でおこなう。
-

(2)

-
- (a) 授業・講義等のテーマ・タイトル：高知の水切瓦はどこから来たか
(b) 対象学校種・学年：中学校・3年生、高等学校・全学年
(c) およその内容：高知発祥・高知独自と考えられている水切瓦の発祥・由来等について、調査データにもとづいて、そうではないことをしめし、水切瓦の由来、全国的なひろがり、などについて解説する。
-

(3)

-
- (a) 授業・講義等のテーマ・タイトル：健康で安全な住まいのあり方
(b) 対象学校種・学年：小学校・中学校・高等学校の全学年(年齢層に応じた内容にできる)
(c) およその内容：住宅・住環境が及ぼす健康への影響、健康で安全な住まいにするために留意する必要があること、などについて解説し、児童・生徒たち自身が住宅・住環境の重要性やそのあり方について学んだり考えたりする授業を、児童・生徒参加型でおこなう。
-

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

3. リカレント講座などの実績

3-1) リカレント講座・免許更新講習・教科教育研修講座などで、小学校・中学校・高等学校教諭や専門職者

などを対象としておこなった講座などの**実績**について記載してください。

(1)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：中学校技術家庭科教育・研修講座「住生活の学習指導と課題」
(b) 実施年度：1995
(c) 対象者の職種等：中学校技術家庭科教諭
(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：北海道江別市
(e) およその内容：中学校の技術家庭科教諭向けに、中学校の家庭科住領域でとりあげてほしい内容についてや、教師自身も持っているべき住宅・住環境にかんする認識等について、解説した。

(2)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：高等学校家庭科教育・研修講座「居住福祉の現状と課題」
(b) 実施年度：1998
(c) 対象者の職種等：高等学校家庭科教諭
(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：北海道江別市
(e) およその内容：住宅・住環境が福祉の基礎として重要であることの認識形成のための講話と、高等学校の住領域でとりあげるべき居住福祉関連の内容等についての解説、などをおこなった。

(3)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：四国住まい・まち・環境教育研修会(テーマは毎回異なる)
(b) 実施年度：2007年～現在(年1回。現在継続中)
(c) 対象者の職種等：小学校・中学校・高等学校の家庭科教諭
(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：高知県高知市・愛媛県松山市・香川県高松市・徳島県徳島市
(e) およその内容：主として中学校・高等学校の家庭科でおこなう住領域授業の内容・方法等について、独自開発教材などを用いて、実践的な内容(参加教師が、その内容をもちかえって、すぐに実施できる、授業にとりいれられる、など)での研修をおこなっている。テーマはさまざま(時間の関係でこの記載例には記載しないが、本調査回答時には、**過去の主な内容を記載する**)

(4)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：寒地建築技術講習「北方型住宅の計画」
(b) 実施年度：1991
(c) 対象者の職種等：住宅の設計者・施工技術者
(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：北海道小樽市・北海道倶知安町
(e) 北海道が作成した北方型住宅基準の、計画面の技術的な解説をおこなった。

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

3-2) リカレント講座・免許更新講習・教科教育研修講座などで、小学校・中学校・高等学校教諭や専門職者などを対象としておこなう講座などについて、**今後可能なもの**を記載してください。

(1)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：住宅・住環境の機能・重要性と家庭科住領域で実施すべき内容
(b) 対象者の職種等：小学校・中学校・高等学校家庭科教諭
(c) およその内容：教師自身が住宅・住環境の重要性等について再認識できるように、日本の住宅事情・住宅政策等とヨーロッパ先進諸国のそれらとを比較しつつ解説し、中学校・高等学校でおこなうべき住領域授業の内容・方法等について、じっさいの授業形式での研修もふくめて、実践的な内容でおこなう。

(2)

-
- (a) 講座等のテーマ・タイトル：教師の住教育力と生徒への教育効果
(b) 対象者の職種等：中学校・高等学校家庭科教諭

(c)およその内容：住教育力とはなにか、現在の家庭科教師の住教育力の現状、教師の住教育力とその生徒への教育効果、などについて、調査データを用いて実証的に明らかにし、家庭科教師の住教育力のあり方、形成のしかた、などについて解説する。

(3)

(a) 講座等のテーマ・タイトル：

(b) 対象者の職種等：

(c) およその内容：

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

4. 公開講座などの実績

4-1) 一般向けの公開講座などの**実績**について記載してください。

(1)

(a) 講座等のテーマ・タイトル：北海道の住宅の「これまで」と「いま」そして「これから」

(b) 実施年度：1994

(c) 対象者のおよその年齢層などの属性：一般市民

(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：北海道石狩市

(e) およその内容：一般市民向けに、北海道の住宅における住生活の特徴、それらにふさわしい住空間のあり方、などについて、北海道の住宅の歴史的な経緯と現状と今後のあるべき姿などをもとに、わかりやすく解説した。

(2)

(a) 講座等のテーマ・タイトル：マイホーム講座「寒地住宅に必要な生活空間」

(b) 実施年度：1992

(c) 対象者のおよその年齢層などの属性：住まいづくりを考えている一般市民

(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：北海道札幌市

(e) およその内容：住まいづくりを考えている一般市民向けに、北国での生活の特徴と、それに応じて必要となる生活空間について、スライドを用いて具体例を紹介しながら解説した。

(3)

(a) 講座等のテーマ・タイトル：

(b) 実施年度：

(c) 対象者のおよその年齢層などの属性：

(d) 実施場所(所在都道府県・市町村)：

(e) およその内容：

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

4-2) 一般向けの公開講座などについて、**今後可能なもの**を記載してください。

(1)

(a) 講座等のテーマ・タイトル：高知の水切瓦と職人技

(b) 対象者のおよその年齢層などの属性：一般市民

(c) およその内容：高知の水切瓦の由来、その特徴、それを支える独自の材料・技術、それらの現状と課題、などを、写真・図版などでわかりやすく解説する。

(2)

- (a) 講座等のテーマ・タイトル：
(b) 対象者のおよその年齢層などの属性：
(c) およその内容：
-

(3)

- (a) 講座等のテーマ・タイトル：
(b) 対象者のおよその年齢層などの属性：
(c) およその内容：
-

(以下、必要な数だけ()付番号の上下の罫線を含めてコピーして、追加記入してください。)

調査は以上です。おいそがしいところ、ご協力いただき、ありがとうございました。

**高知県立大学
生涯学習実績等調査
2014年度調査報告書
[学外公開版]**

発行日 2015年04月30日
発行者 高知県立大学
発行人 高知県立大学
地域教育研究センター長
荻沼一男(～2014年度)
清原泰治(2015年度～)
地域教育研究センター生涯学習部会長
宇野浩三
編 集 生涯学習部会
宇野浩三
芋生裕信(～2014年度)
ジョエル・ヨース(2015年度～)
森下利子
山村靖彦(副部会長・～2014年度)
福間隆康(副部会長・2015年度～)
廣内智子(代理：和田安彦)
一色健司(～2014年度)
野辺陽子(2015年度～)
清原泰治(オブザーバー・2014年度)
事務局 地域連携課
川崎 伸(～2014年度)
山崎水紀夫(2015年度～)
河野淑子
